

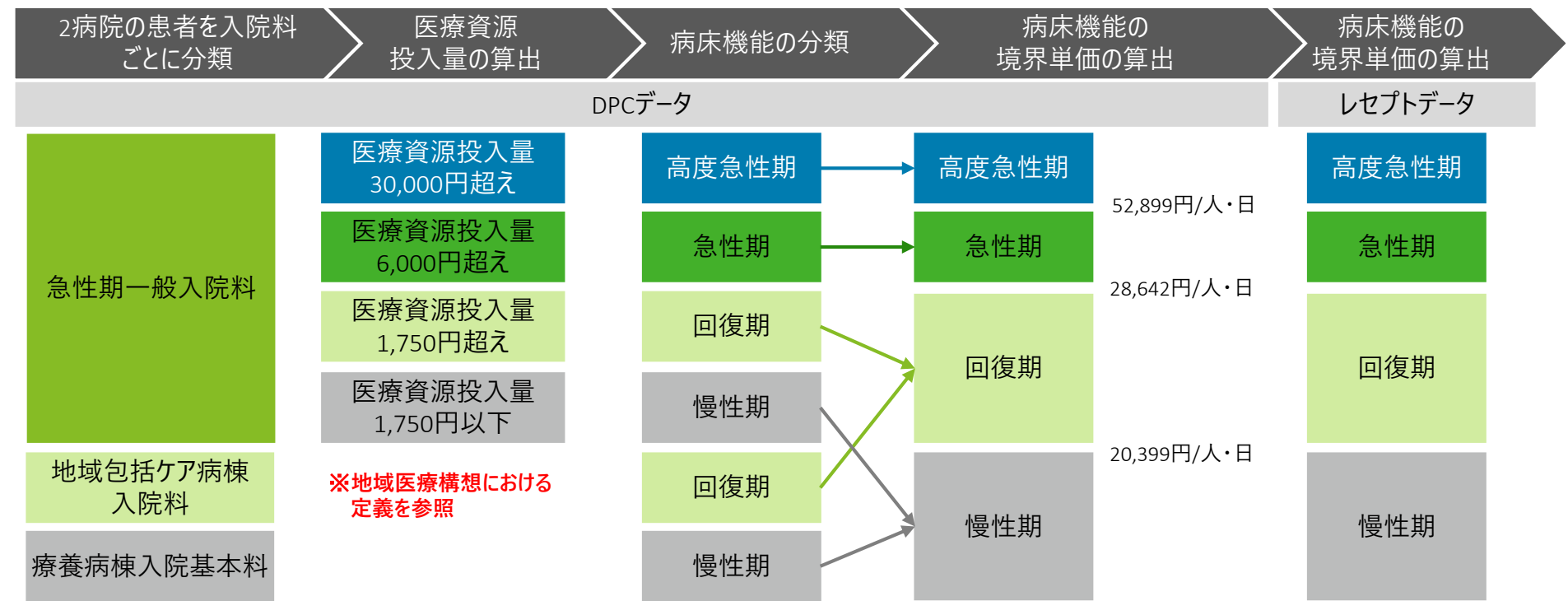
国保・後期高齢者レセプト分析結果概要

レセプト分析方法

2病院のDPCデータから医療資源投入量及び入院単価を算出することにより、萩市民（レセプトデータに掲載されている入院患者）を各病床機能※へ分類した

※国の地域医療構想の定義を参照にした、独自の分類

萩市民の入院患者を病床機能分類の流れ



- ✓ 2病院のDPCデータから、入院患者を算定している入院基本料別に分類

✓ 急性期一般入院料算定患者の医療資源投入量を算出

✓ レセプトの単価が月平均となるため、医療資源投入量も月平均としている

《医療資源投入量》
診療明細のうち、入院料及びリハビリ項目（運動器リハ等）を除いたもの
- ✓ 地域医療構想の定義に従って、2病院入院患者を病床機能に分類
- ✓ 各病床機能の患者の単価について、低い単価から25%に位置する単価（25%タイル値）を各病床機能の境界単価として設定

✓ レセプトの単価が月平均となるため、単価も月平均としている
- ✓ 境界単価を用いてレセプトデータから萩市民入院患者を各病床機能に分類

萩市の国保・後期高齢者レセプトを基にした患者推計における前提条件は以下の通り

患者推計の流れ

萩市内の推計患者数 = 萩市推計人口 × 受療率

- ✓ 推計患者数全体には、国保・後期高齢者患者数に加え、社会保険患者数を含む
- ✓ 阿武町の推計患者数を含んでいないが、萩医療圏内の9割の人口に基づく推計であるため、トレンドに大きな影響はないものと思料

《推計患者数の前提条件》

受療率に関しては、性別・年齢が同じであれば保険種別に係らず受療率は大きく変わらないと想定

国保・後期高齢者患者の受療率を
社会保険患者の受療率に適用

■ 国保、後期高齢者患者数（人/日）

- 診療実日数合計値 ÷ 365日
 - ・ 対象ICD-10分類別・性別・年齢階級別の診療実日数を集計し、1日当たりに換算
 - ・ 1年分のデータ（365日分）を1日当たりに換算

※ICD-10分類は、各レセプトの疾病コードから対応させている

■ 受療率（受療率は人口10万人当たりの患者数）

- 国保、後期高齢者患者数の算出結果 ÷ 加入者数 × 100,000
 - ・ 対象ICD-10分類別・性別・年齢階級別に算出

■ 医療機関を受療した患者数（人/日）

- 各受療率 × 萩市の各年齢階級・性別人口推計 ÷ 100,000
 - ・ 人口推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）を使用

レセプト分析結果

萩市民の入院患者については、回復期・慢性期は市内完結率が70%以上となっているの に対して、高度急性期・急性期では約51.5%と相対的に低い状況である

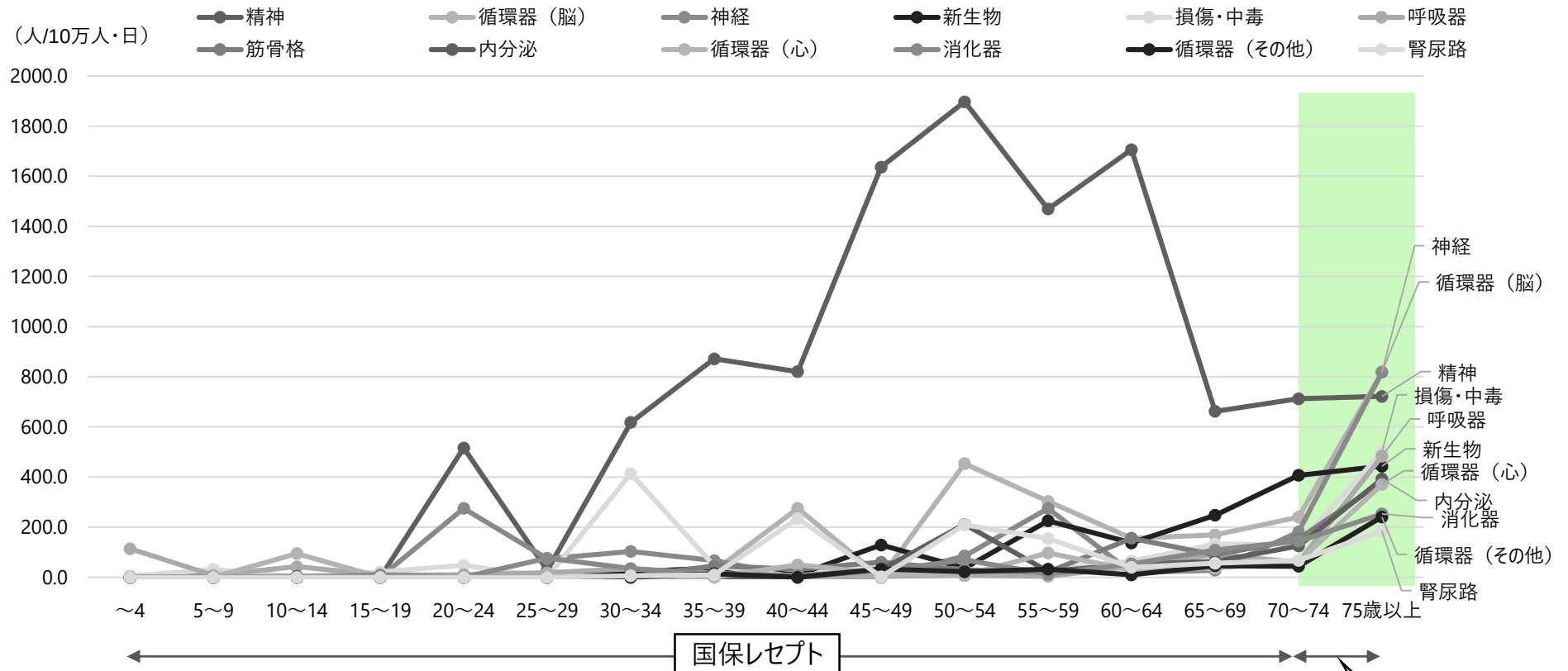
	病床機能	分析結果概要
入院	全体	■ 患者数は2020年から2045年にかけて一貫して減少することが見込まれる ➢ 2020年⇒2045年 ▲388.9人/日 (▲31.2%) ■ 疾患分類別においても各疾患分類で一貫して減少することが見込まれる ➢ 疾患分類別では「精神」の患者が最も多く、次いで「循環器（脳）」、「神経」である ■ 萩市民の市内完結率は69.5%となっている ➢ 「新生物」では43.4%、「神経」で53.7%と、他の疾患分類と比べて相対的に低くなっている
	高度急性期・急性期	■ 患者数は2020年から2045年にかけて一貫して減少することが見込まれる ➢ 2020年⇒2045年 ▲105.7人/日 (▲34.3%) ■ 疾患分類別においても、各疾患分類で一貫して減少することが見込まれる ➢ 疾患分類別では「新生物」の患者数が最も多い ■ 萩市民の市内完結率は51.5%となっている ➢ 「新生物」の市内完結率は27.3%と、他の疾患分類と比べて相対的に低くなっている
	回復期	■ 患者数は2020年から2045年にかけて一貫して減少することが見込まれる ➢ 2020年⇒2045年 ▲48.2人/日 (▲29.9%) ■ 疾患分類別においても、循環器（心）では2035年で微増している一方で、他の多くの疾患では一貫して減少することが見込まれる ➢ 疾患分類別では「損傷・中毒」の患者数が最も多い ■ 萩市民の市内完結率は74.2%となっている ➢ 最も患者数が多い「損傷・中毒」では市内完結率が56.1%と、他の疾患分類よりも相対的に市内完結率は低くなっている
	慢性期	■ 患者数は2020年から2045年にかけて減少することが見込まれる ➢ 2020年⇒2045年 ▲235.0人/日 (▲30.2%) ■ 疾患分類別においては、「精神」及び「循環器（心）」を除いて2035年までは横ばいで推移した後、2045年に向けて減少が見込まれる ➢ 疾患分類別では「精神」の患者数が最も多く、次いで「循環器（脳）」、「神経」が多い ■ 萩市民の市内完結率は76.0%となっている ➢ 「精神」以外の疾患で患者数が相対的に多い「神経」では市内完結率は48.8%と、他の疾患分類と比べて相対的に低くなっている
外来		■ 患者数は2020年から2045年にかけて減少することが見込まれる ➢ 2020年⇒2045年 ▲1,083.4人/日 (▲39.7%) ■ 疾患分類においても、各疾患分類で一貫して減少することが見込まれる ➢ 疾患分類では「筋骨格」の患者が最も多く、次いで「循環器（その他）」の患者が多くなっている ■ 萩市内の市内完結率は、84.6%となっている ➢ 「新生物」及び「腎尿路」の患者の市内完結率は61～65%程度と、他の疾患分類に比べて相対的に市内完結率が低くなっている

病床機能全体

入院患者推計と市内完結率

萩市民の入院受療率は、多くの疾患分類で75歳以上で上昇している中で、特に「神経」、「循環器（脳）」の受療率上昇が顕著である

萩市民における入院受療率



■ 受療率算出方法

➤ 算出方法

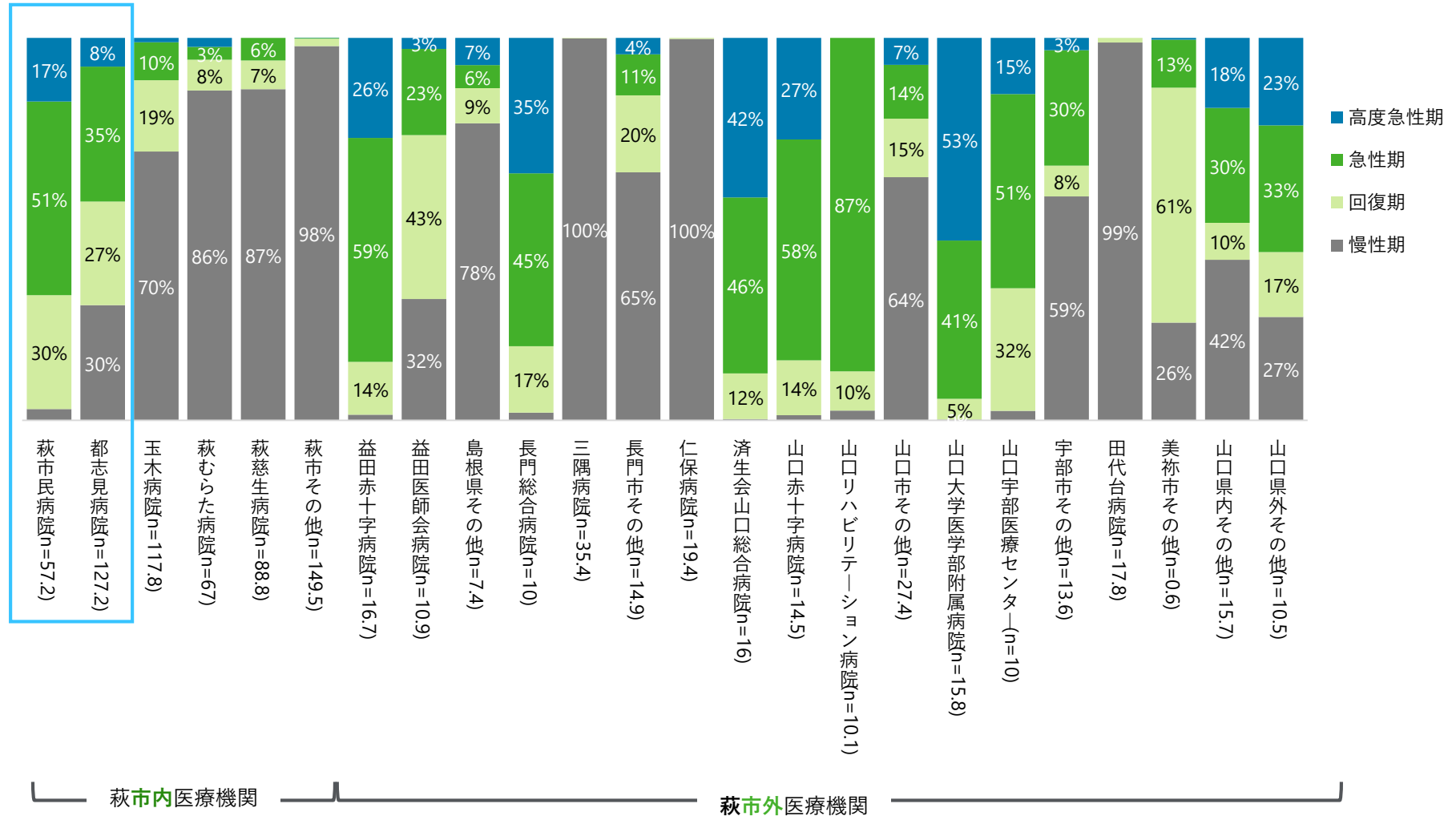
- 性別及び年齢階級別の国保、後期高齢者の1日当たり延患者数を集計し、各性別・年齢階級の加入者数を用いて算出

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

萩市民の高度急性期・急性期患者の市外流出は目立つものの、市内受け入れ患者については主に萩市民病院及び都志見病院で対応している状況である

国保・後期高齢者患者数実績

各医療機関における病床機能別の萩市民受け入れ状況



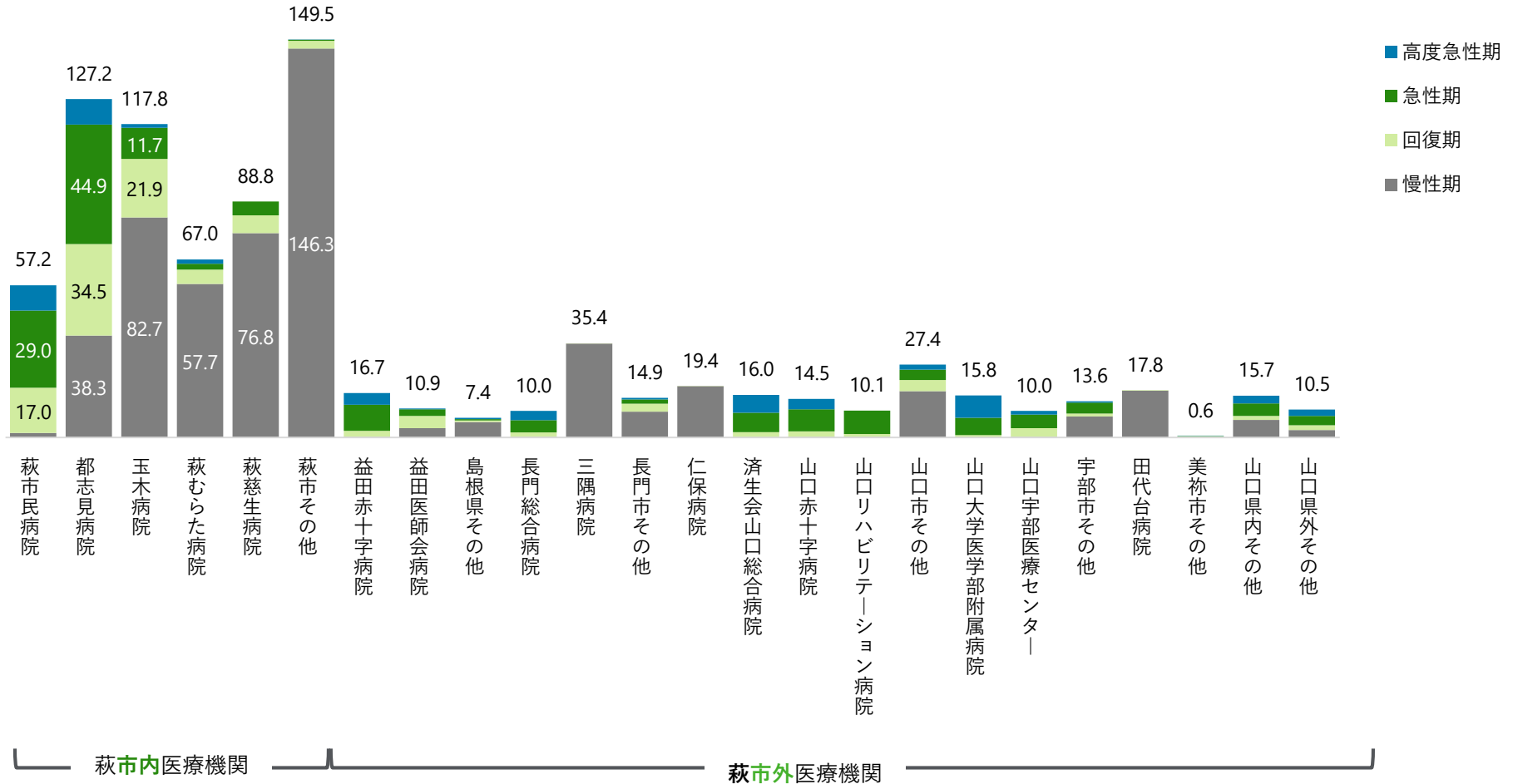
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

【参考】医療機関別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

各医療機関における病床機能別の萩市民受け入れ状況

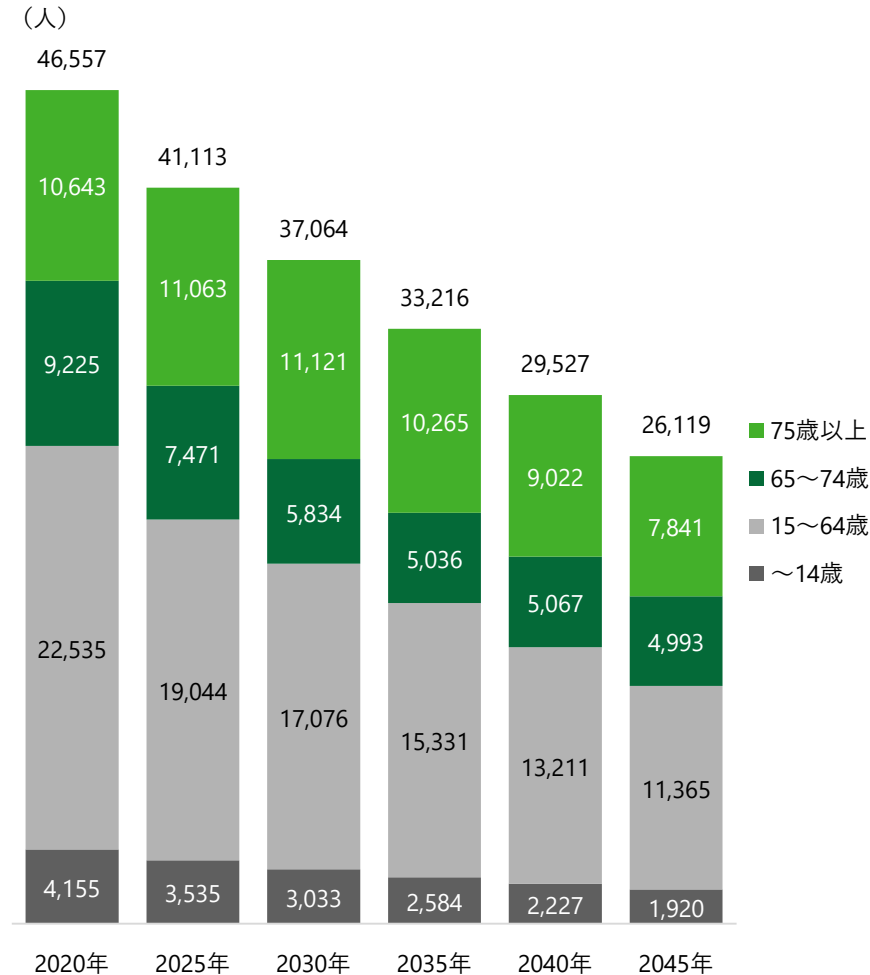
延患者数（人/日）



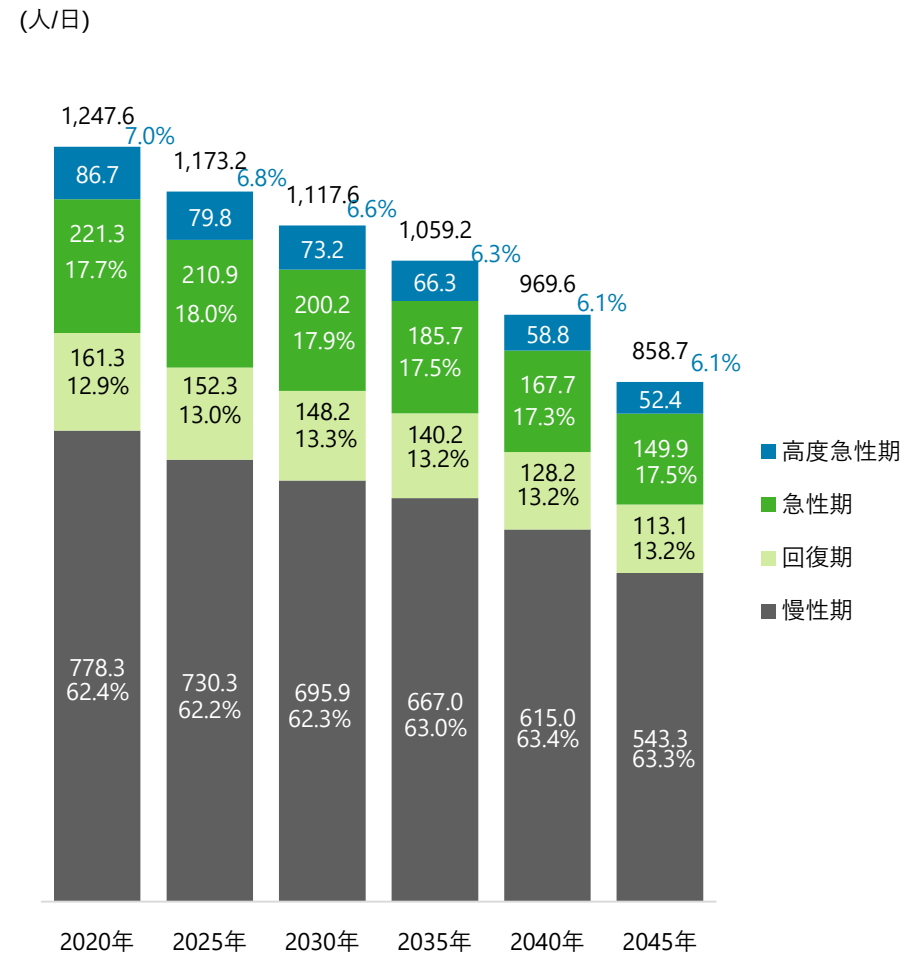
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

萩市の入院患者数は、各年齢階級の人口減少に伴って、各病床機能で2045年に向けて一貫して減少することが見込まれる

萩市内における人口推計



萩市民における入院患者推計



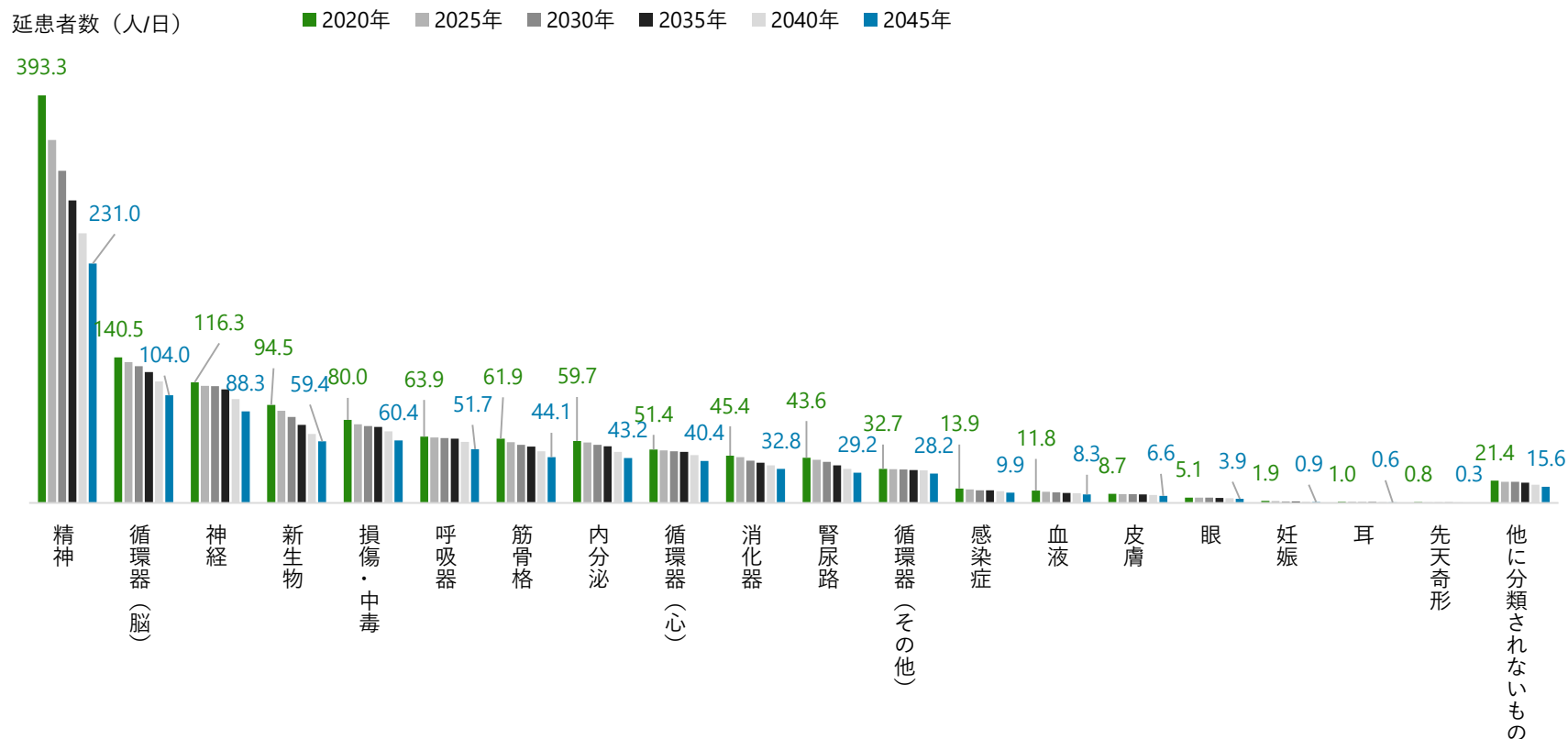
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

萩市民の入院患者全体では、各疾患分類で2045年に向けて患者数の減少が見込まれている

患者推計値

全体

全体_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

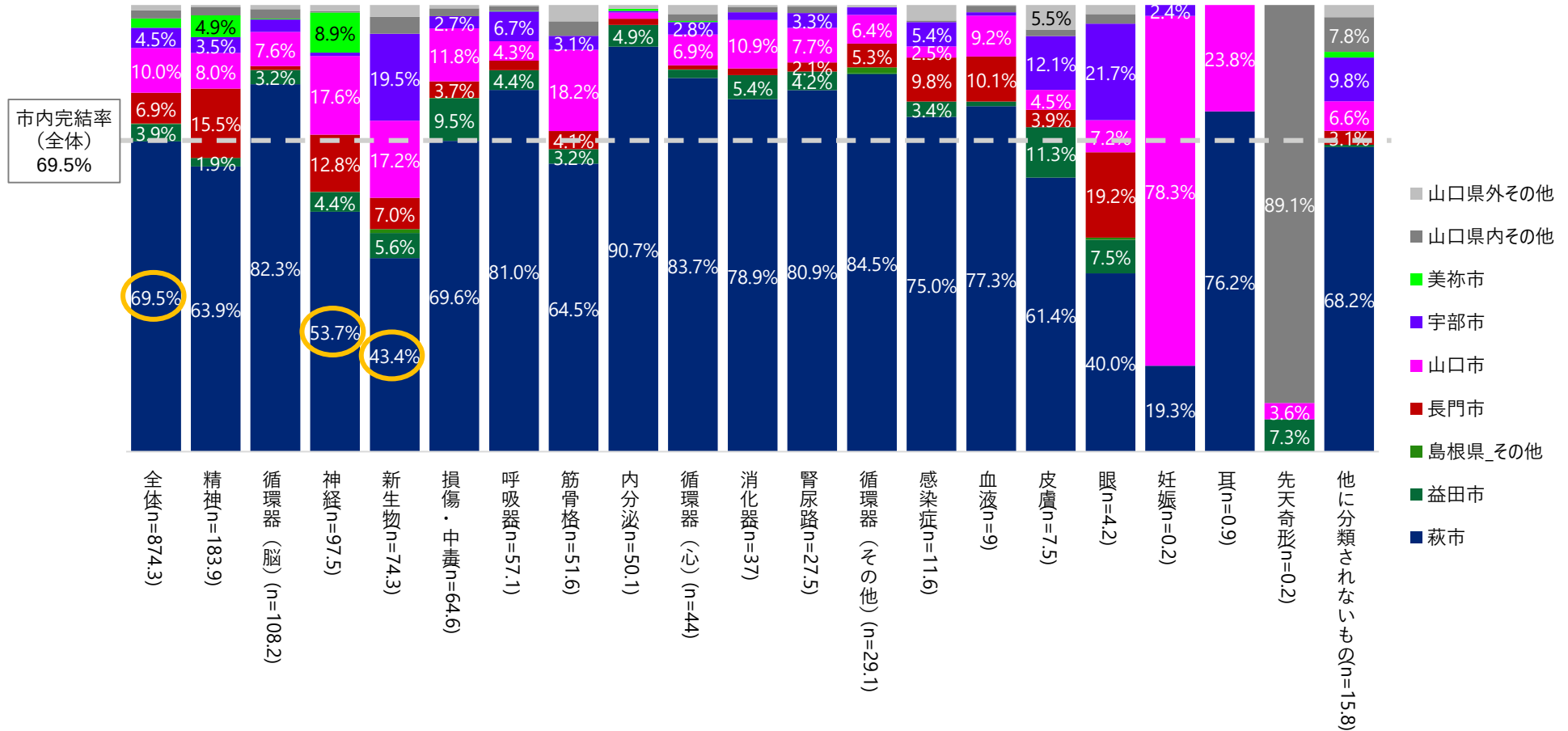
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

萩市民の入院患者の市内完結率は、69.5%である一方、「新生物」では43.4%、「神経」では53.7%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

全体

全体_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



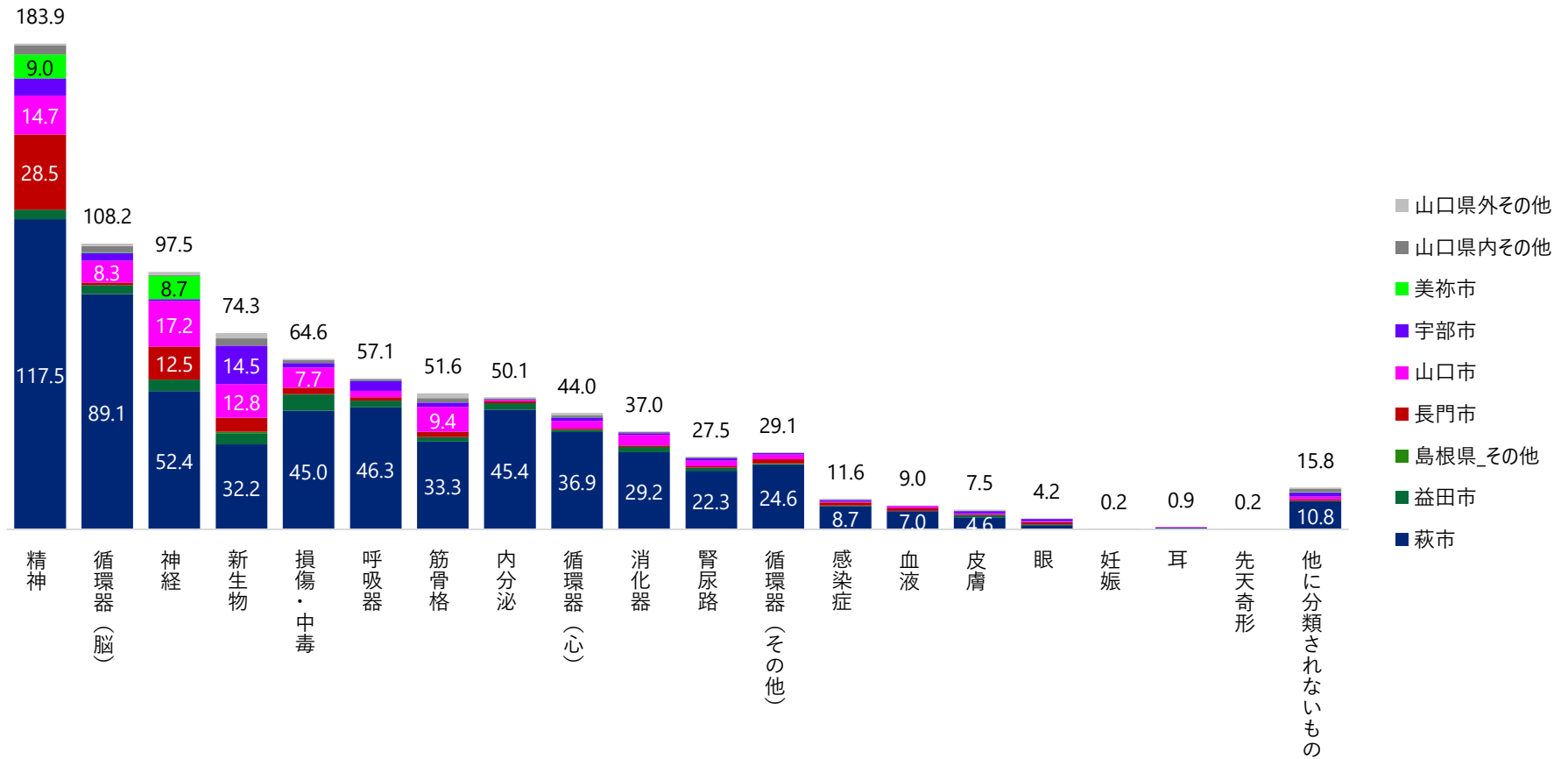
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

【参考】全体_疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

全体

全体_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

高度急性期・急性期 入院患者推計と市内完結率

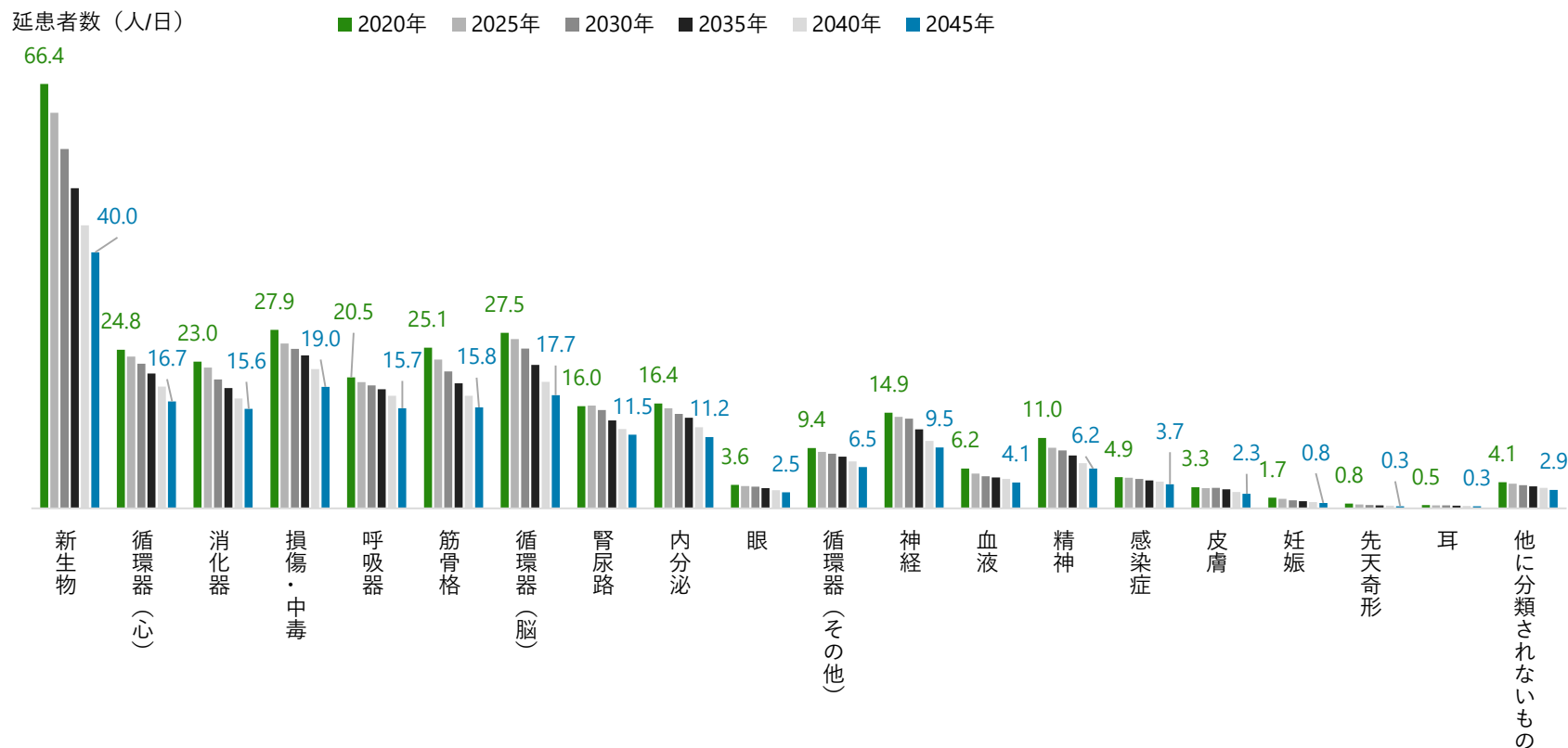
高度急性期・急性期患者では、今後、各疾患分類で患者数が減少するものの、継続して「新生物」が最も多く、次いで「循環器（脳）」、「損傷・中毒」が多いことが見込まれる

患者推計値

高度急性期

急性期

高度急性期・急性期_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

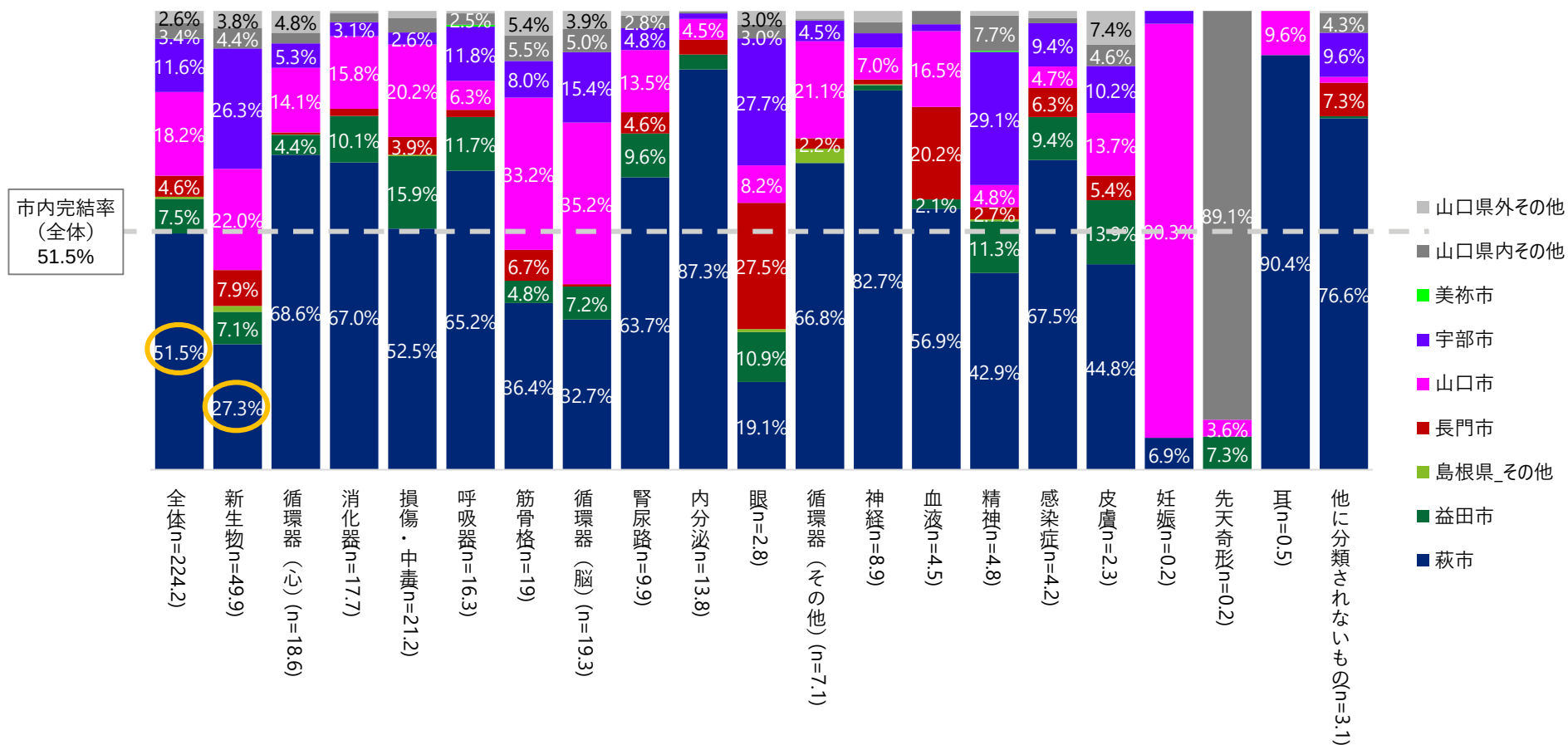
高度急性期・急性期の市内完結率は全体で51.5%である一方、最も患者数が多い「新生物」では、山口市及び宇部市に流出した結果、27.3%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

高度急性期

急性期

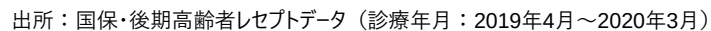
高度急性期・急性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



国保・後期高齢者患者数実績

急性期

延患者数 (人/日)



高度急性期

入院患者推計と市内完結率

高度急性期患者では、今後、各疾患分類で患者数が減少するものの、継続して「新生物」患者が最も多いと見込まれる

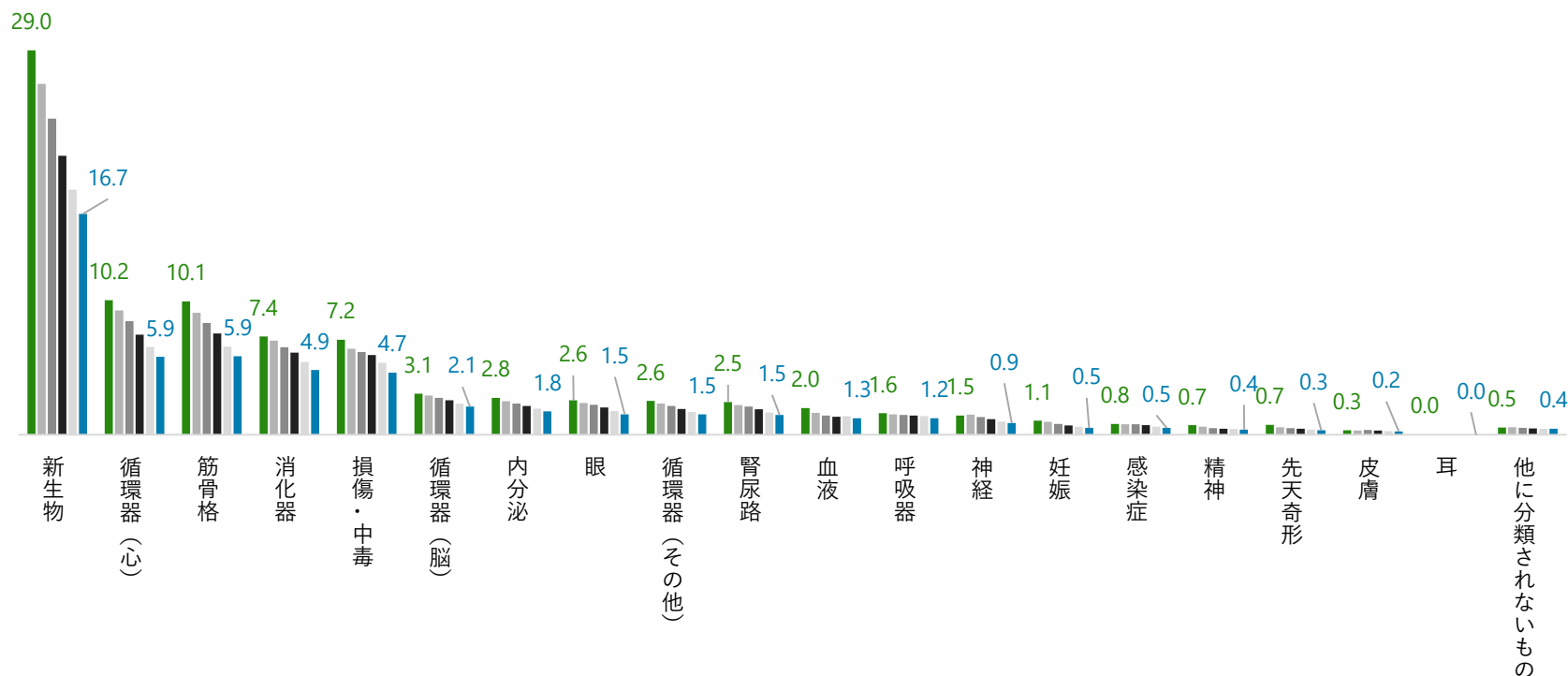
患者推計値

高度急性期

高度急性期_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）

延患者数（人/日）

■ 2020年 ■ 2025年 ■ 2030年 ■ 2035年 ■ 2040年 ■ 2045年



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

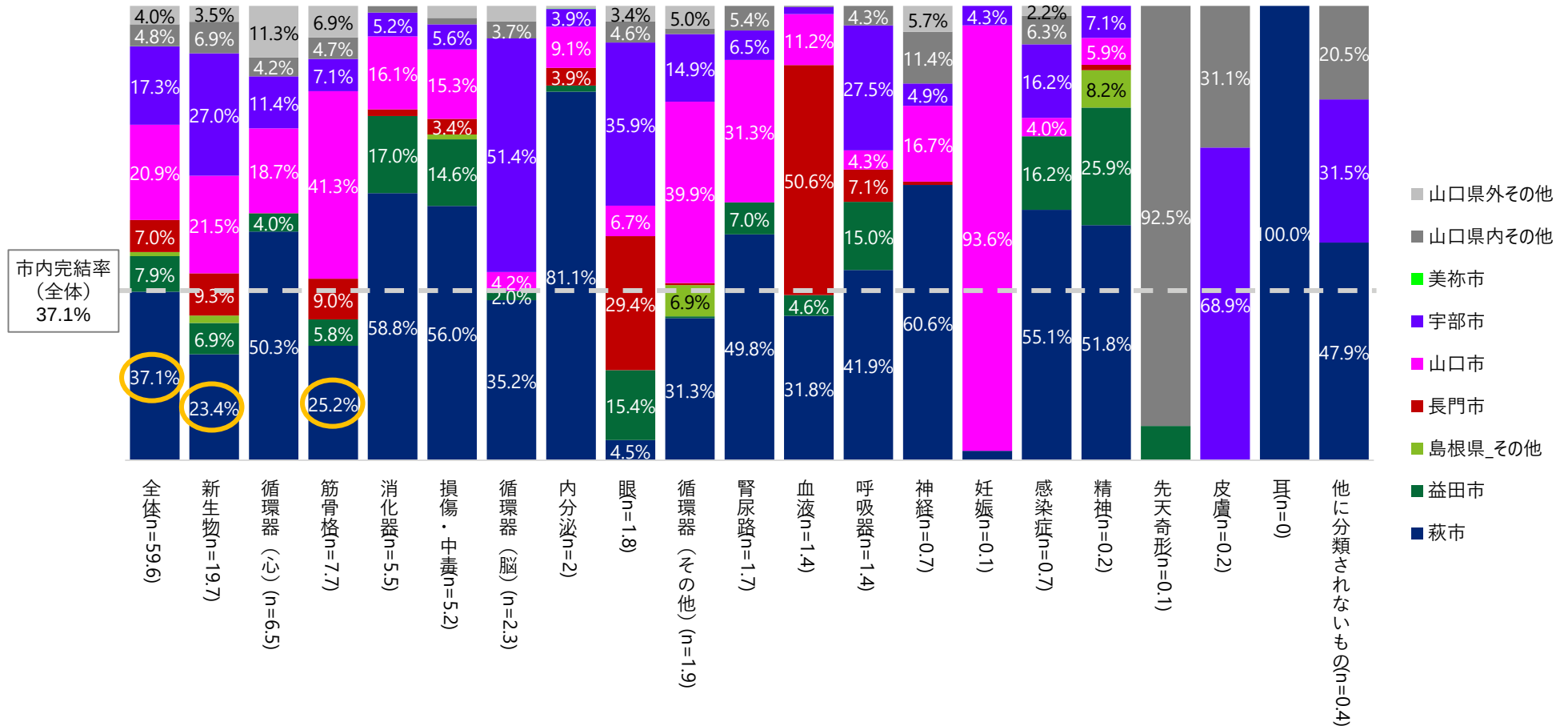
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

高度急性期患者では、山口市や宇部市への入院患者の流出の結果として、全体の市内完結率が37.1%、「新生物」は23.4%、「筋骨格」は25.2%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

高度急性期

高度急性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

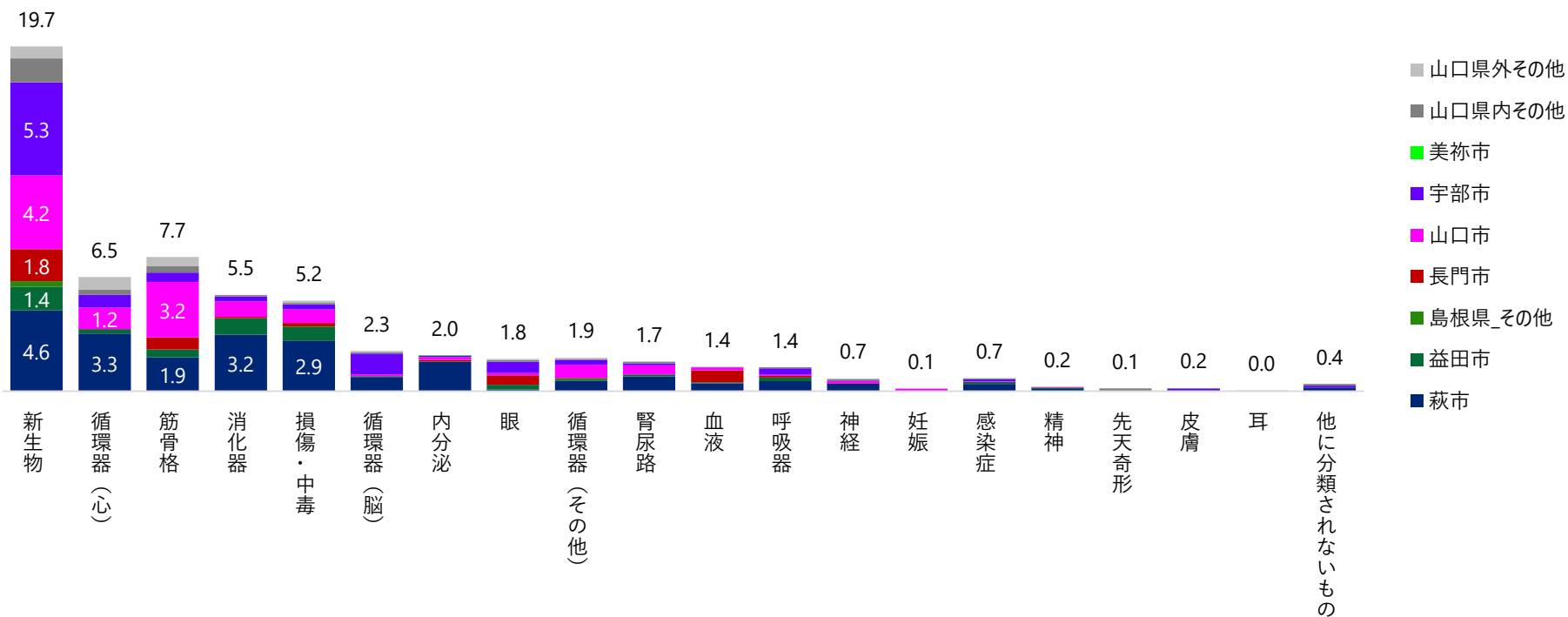
【参考】高度急性期 疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

高度急性期

高度急性期 萩市民が入院している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）

延患者数 (人/日)



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

急性期

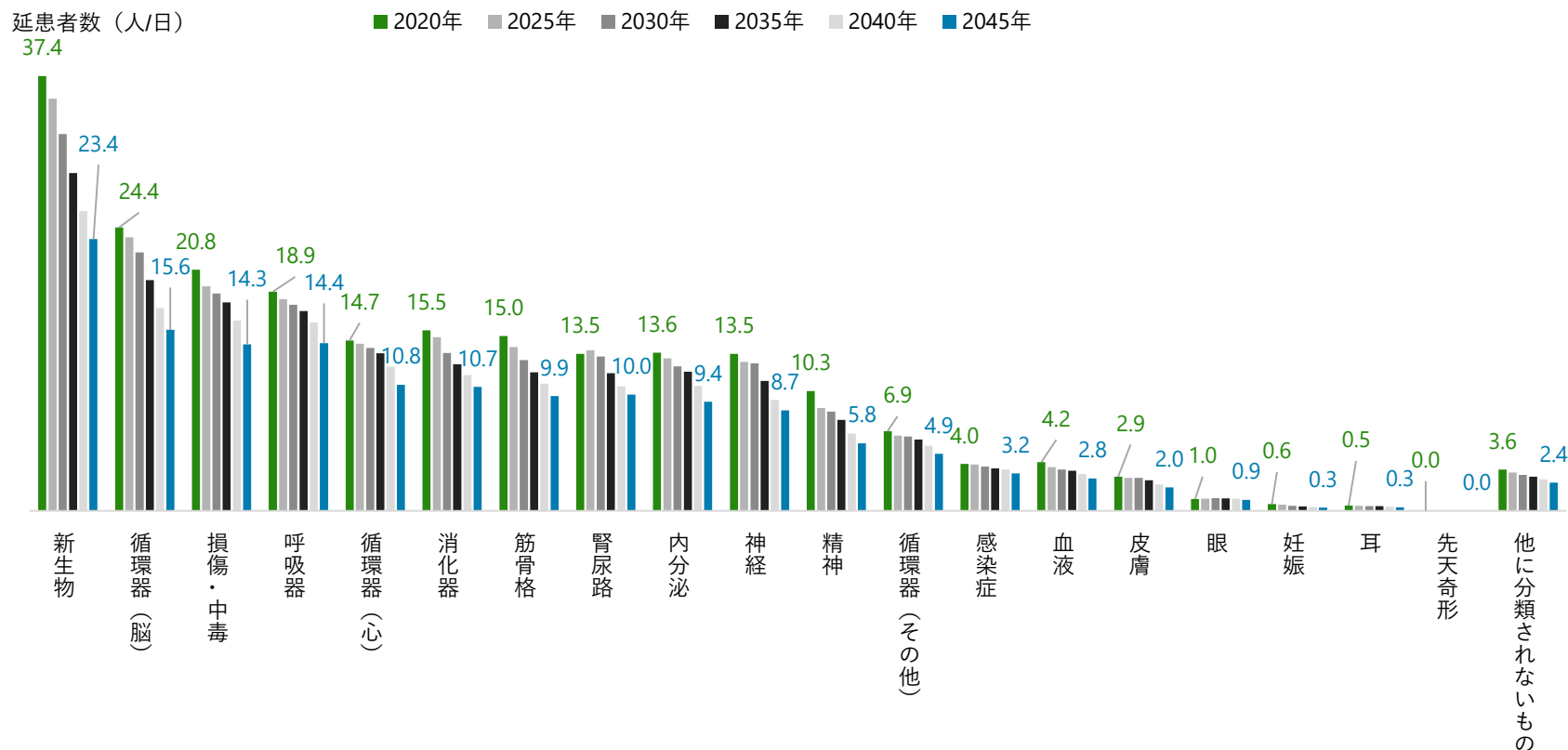
入院患者推計と市内完結率

急性期患者では、今後、各疾患分類で患者数が減少するものの、継続して「新生物」患者が最も多く、次いで「循環器（脳）」、「損傷・中毒」、「呼吸器」が多いことが見込まれる

患者推計値

急性期

急性期_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

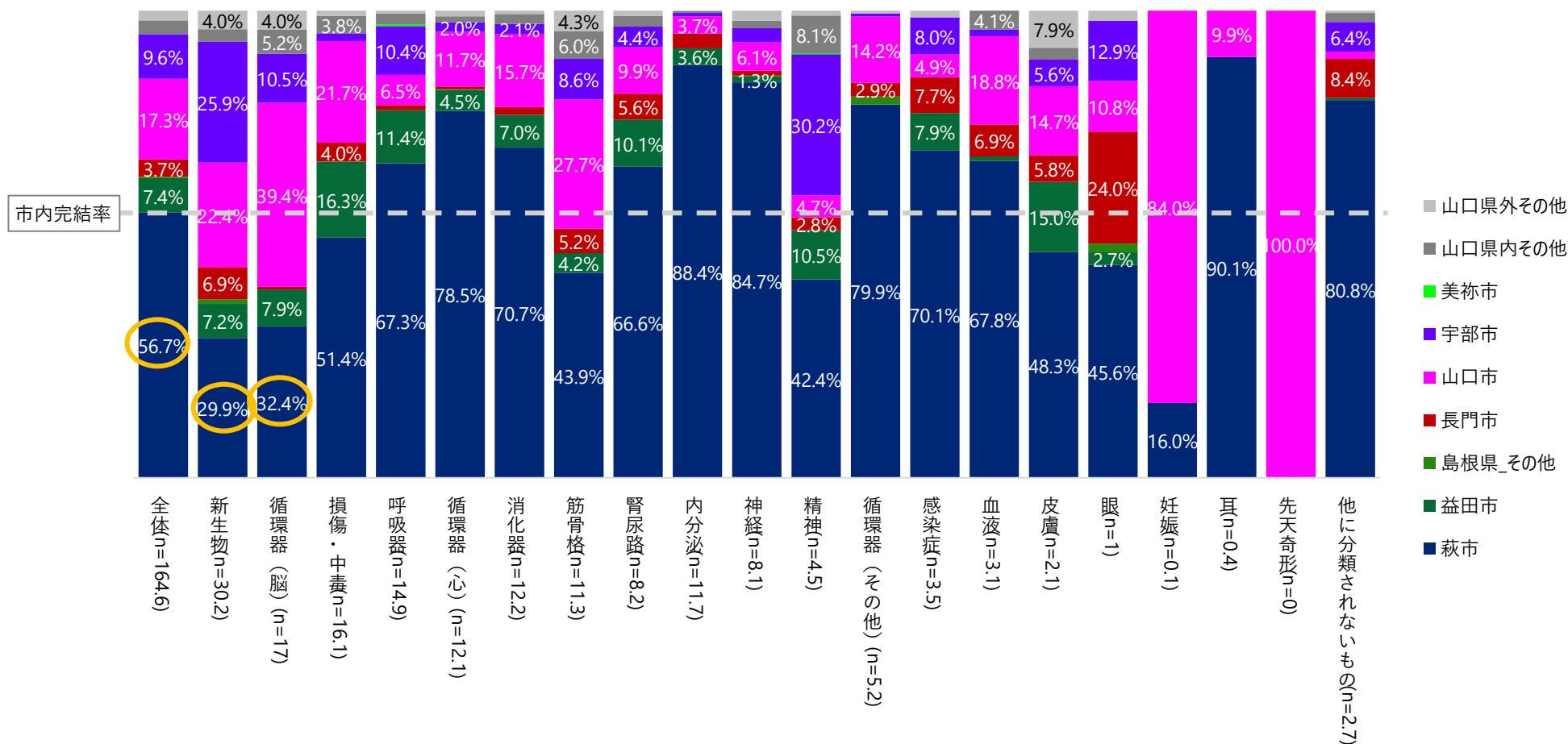
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

急性期の市内完結率は全体で56.7%である一方、山口市及び宇部市に流出した結果、「新生物」では29.9%、「循環器（脳）」では32.4%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

急性期

急性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

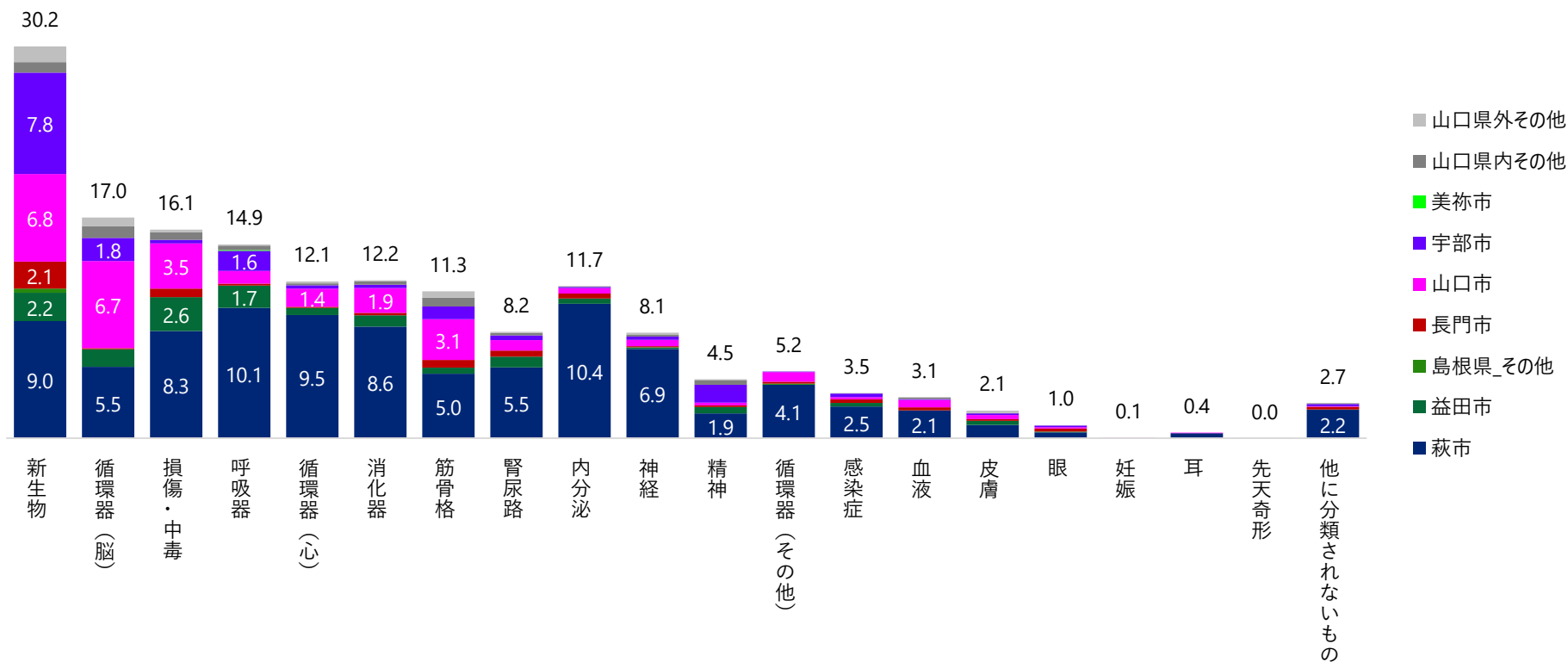
【参考】急性期_疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

急性期

急性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）

延患者数（人/日）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

回復期

入院患者推計と市内完結率

回復期では、今後、各疾患分類で患者数が減少するものの、「損傷・中毒」が今後も継続して最も多いと見込まれる

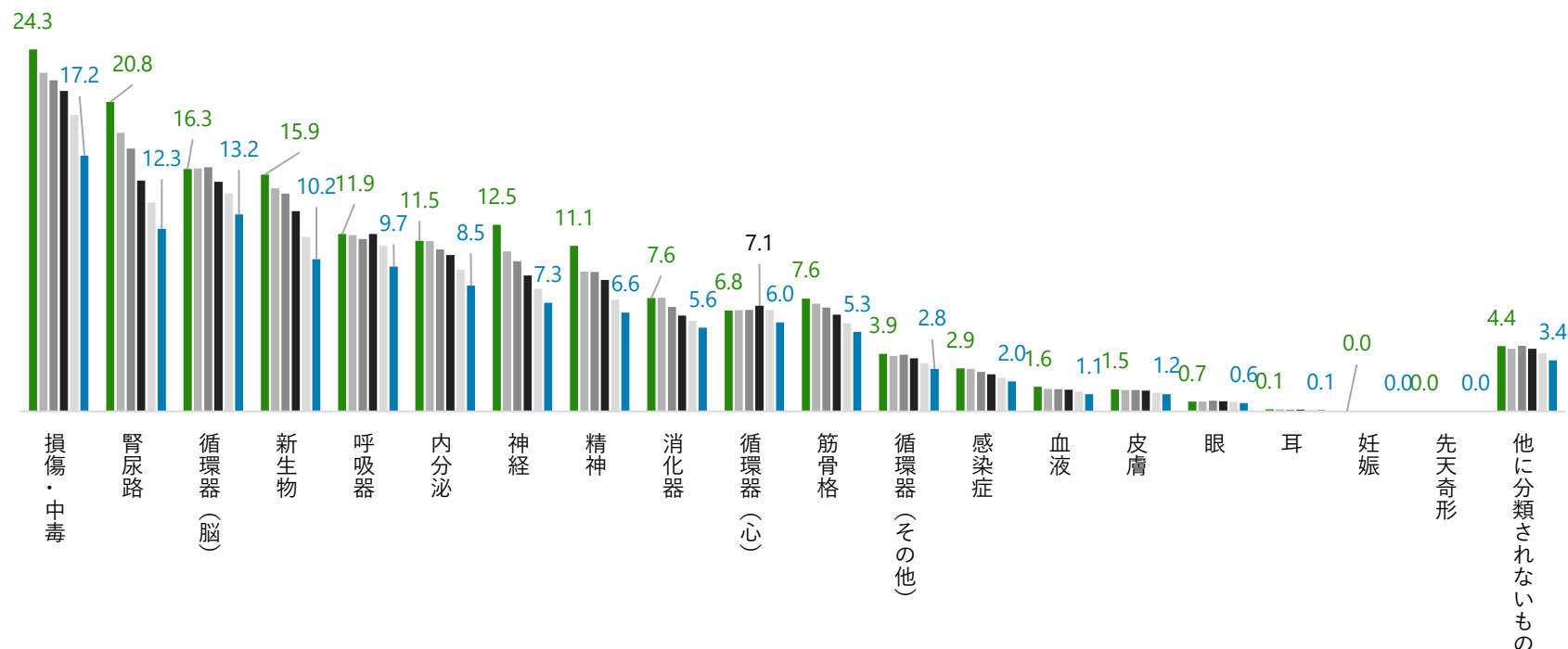
患者推計値

回復期

回復期_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）

延患者数（人/日）

■ 2020年 ■ 2025年 ■ 2030年 ■ 2035年 ■ 2040年 ■ 2045年



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

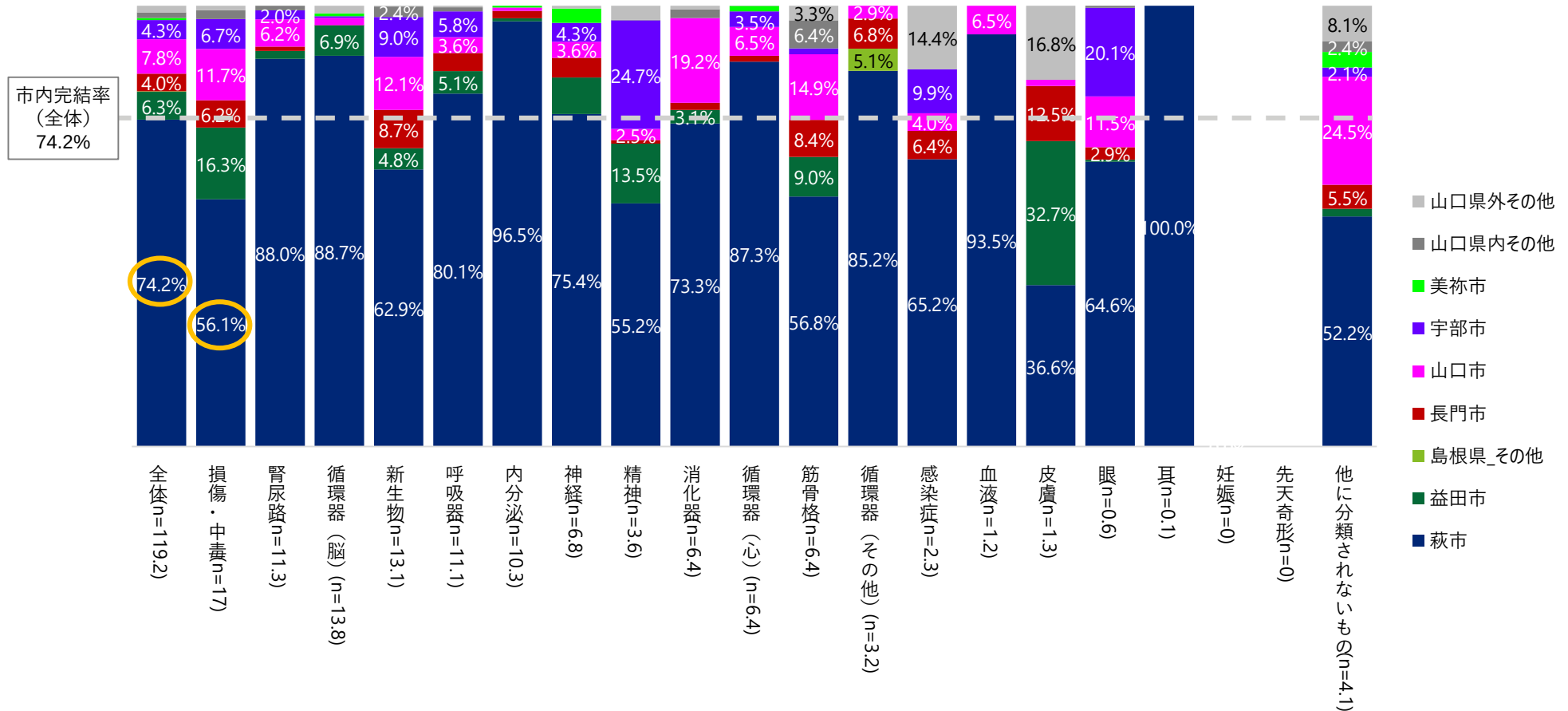
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

回復期全体では市内完結率は74.2%となっている中で、益田市や山口市への流出の結果、最も患者数の多い「損傷・中毒」は56.1%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

回復期

回復期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

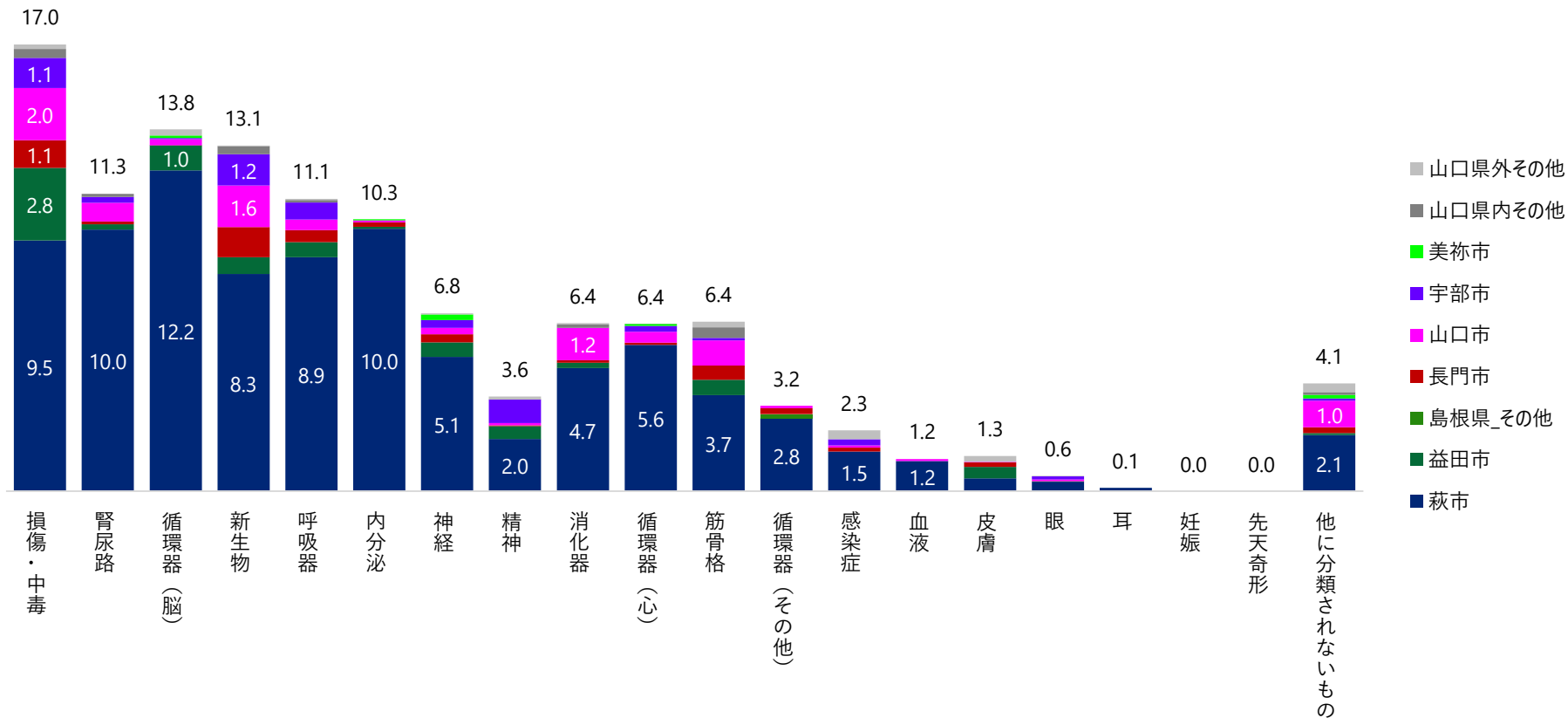
【参考】回復期_疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

回復期

回復期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）

延患者数（人/日）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

慢性期

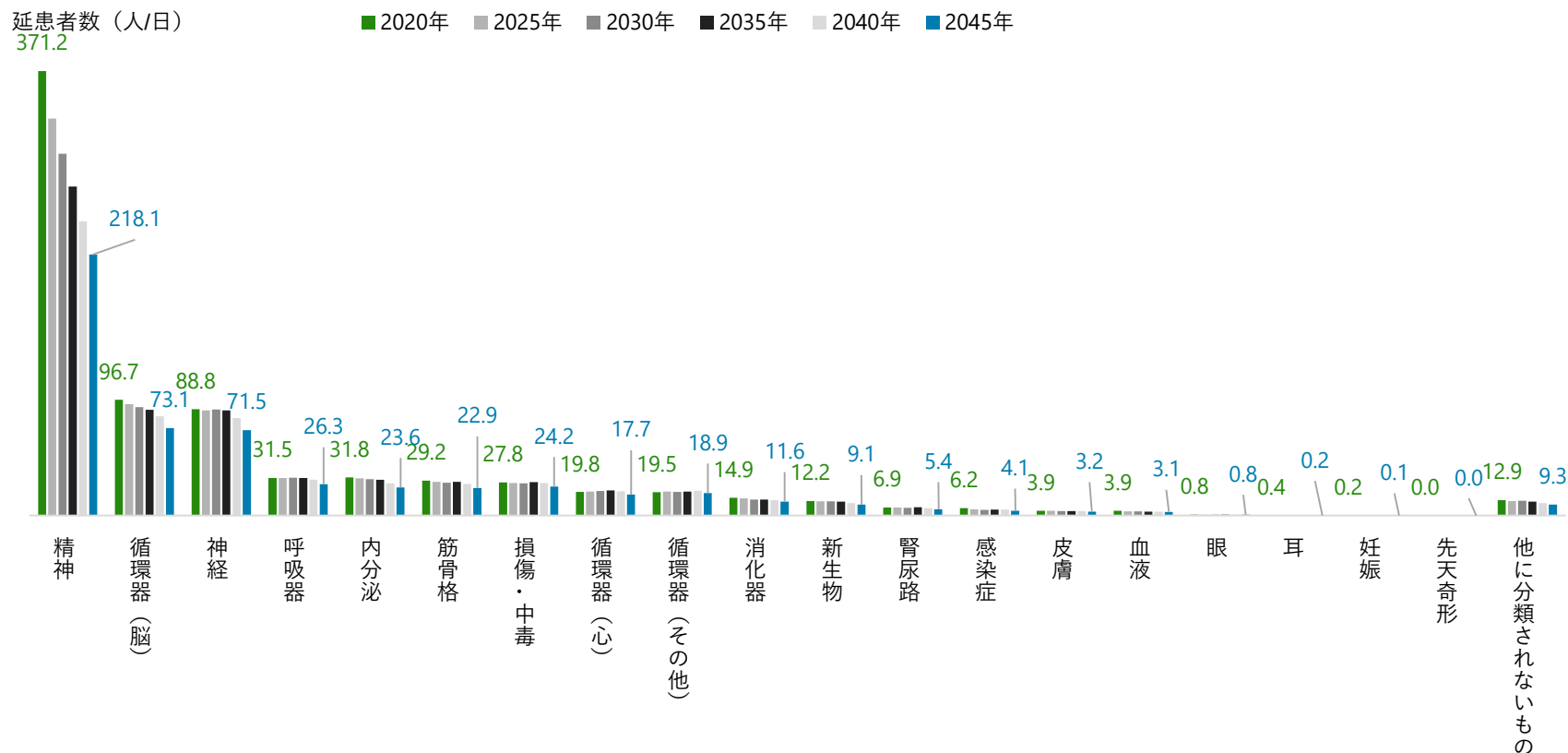
入院患者推計と市内完結率

慢性期では、「精神」、「循環器（心）」を除く疾患分類では2035年までは概ね横ばいで推移した後、2045年に向けて減少することが見込まれる

患者推計値

慢性期

慢性期_萩市民の入院患者推計（ICD-10分類別）



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

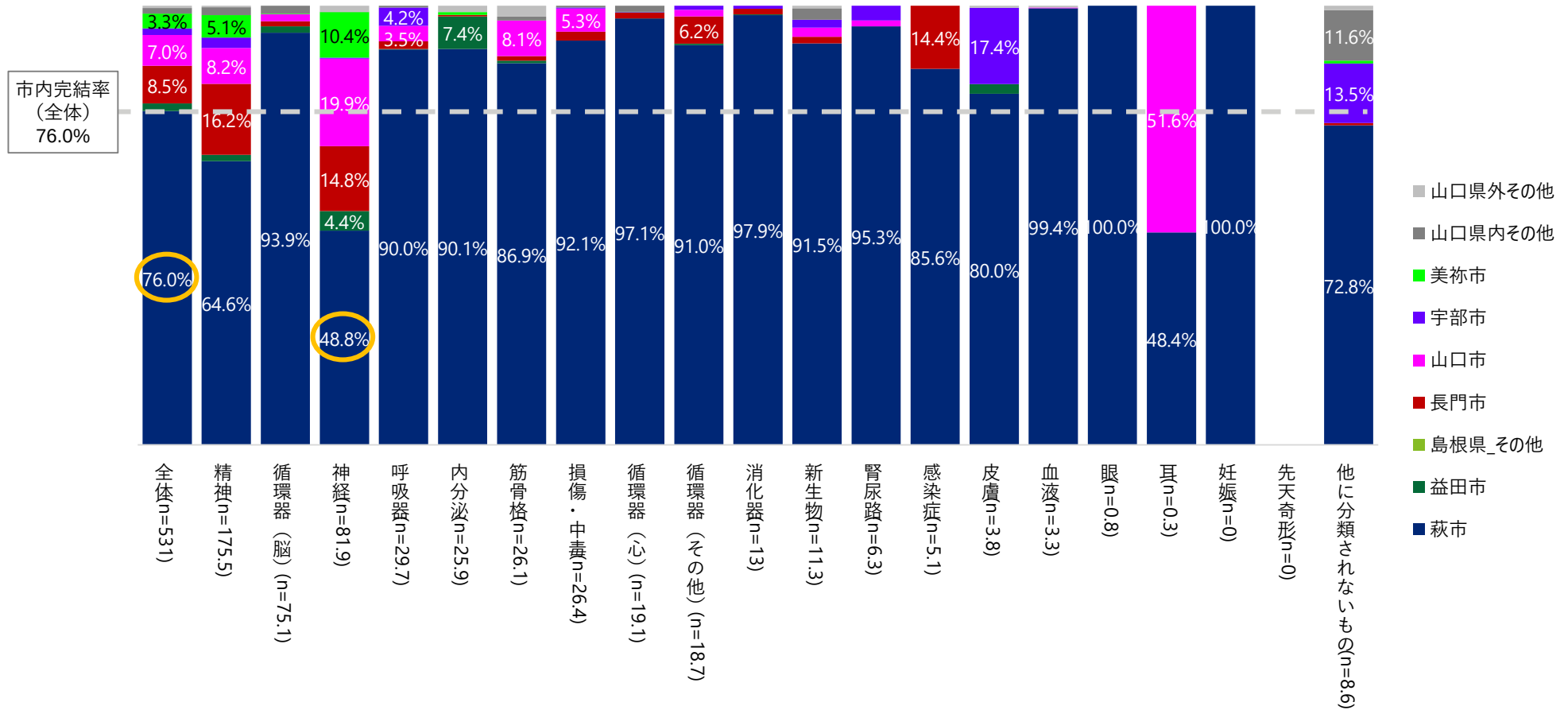
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

慢性期全体では市内完結率は76.0%となっている中で、長門市や山口市への流出の結果、「神経」では48.8%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

慢性期

慢性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



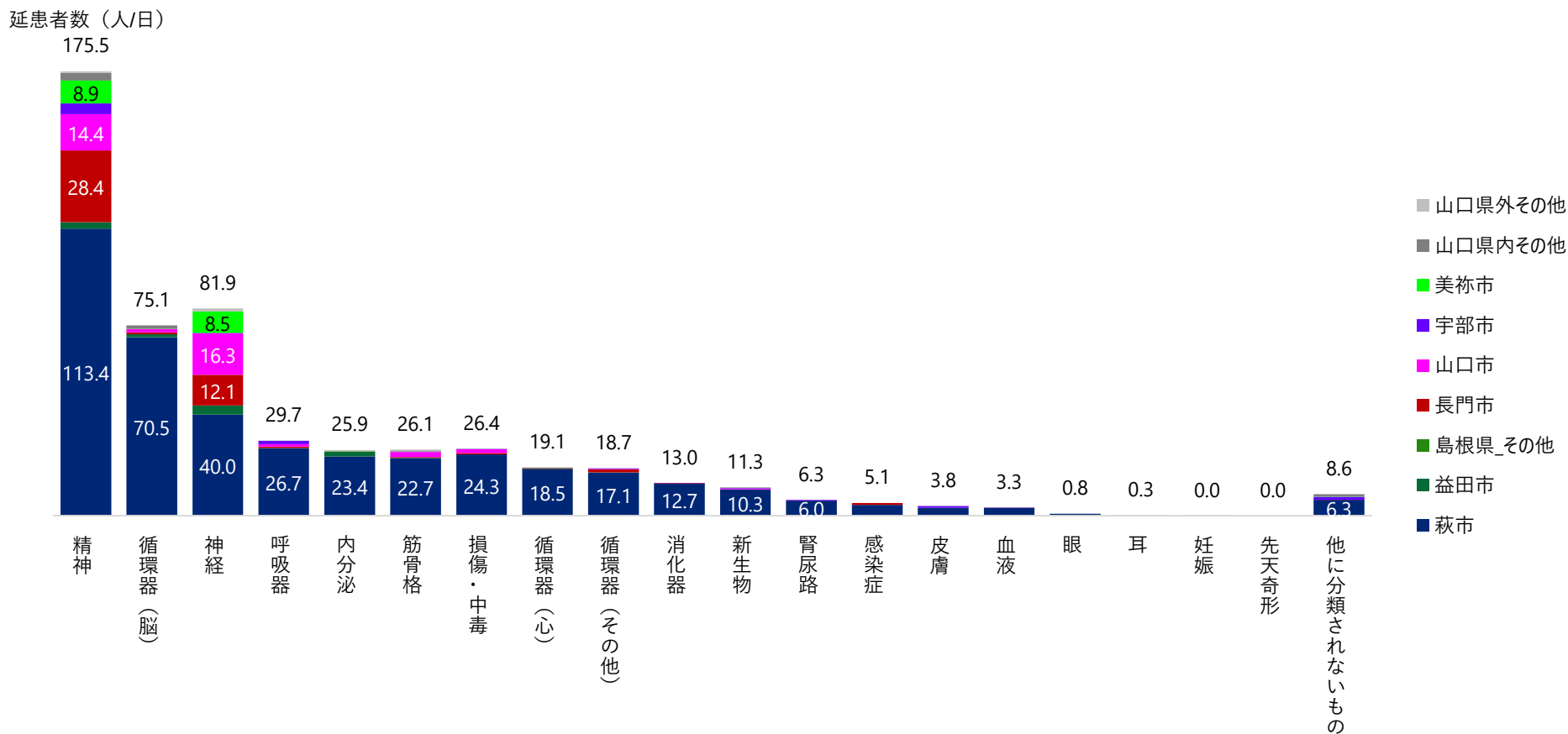
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

【参考】慢性期_疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

慢性期

慢性期_萩市民が入院している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

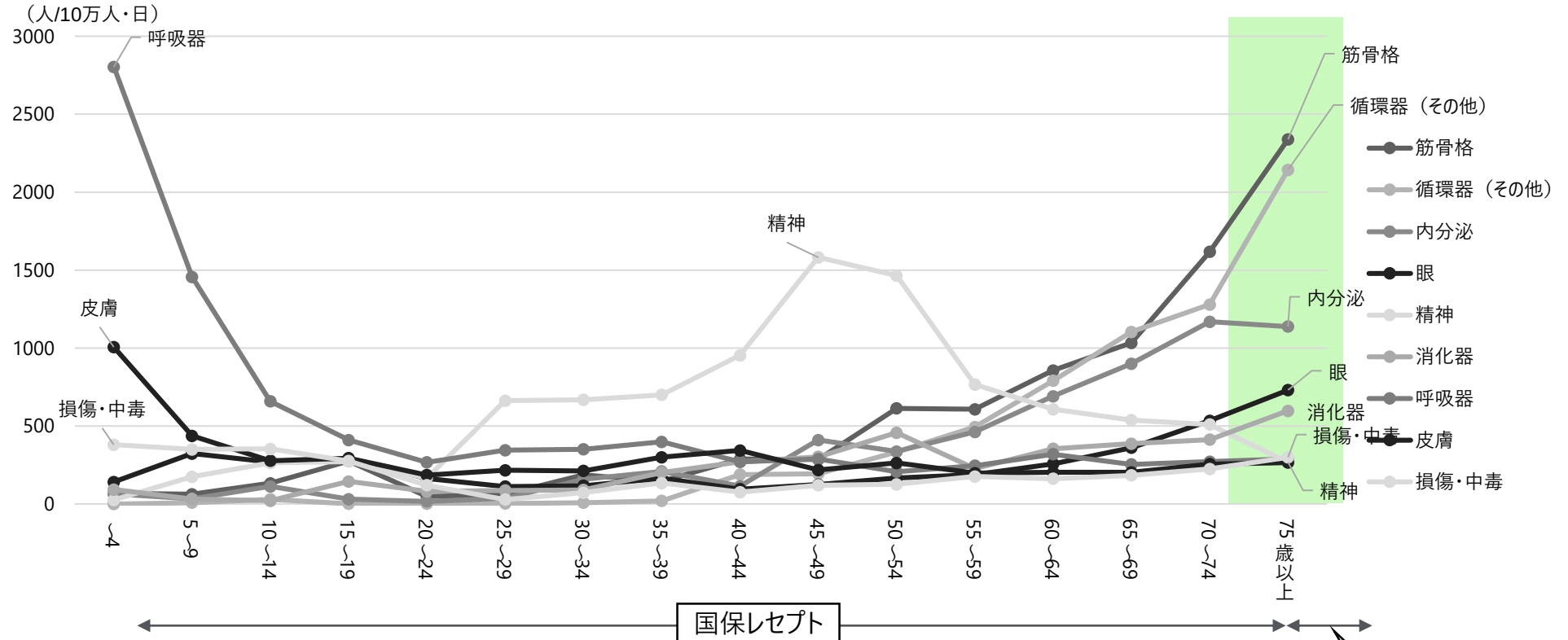
外来

外来患者推計と市内完結率

萩市民の外来受療率は、多くの疾患分類で75歳以上で上昇している中で、特に「筋骨格」、「循環器（その他）」の受療率上昇が高い水準にある

外来

萩市民における外来受療率



■ 受療率算出方法

➤ 算出方法

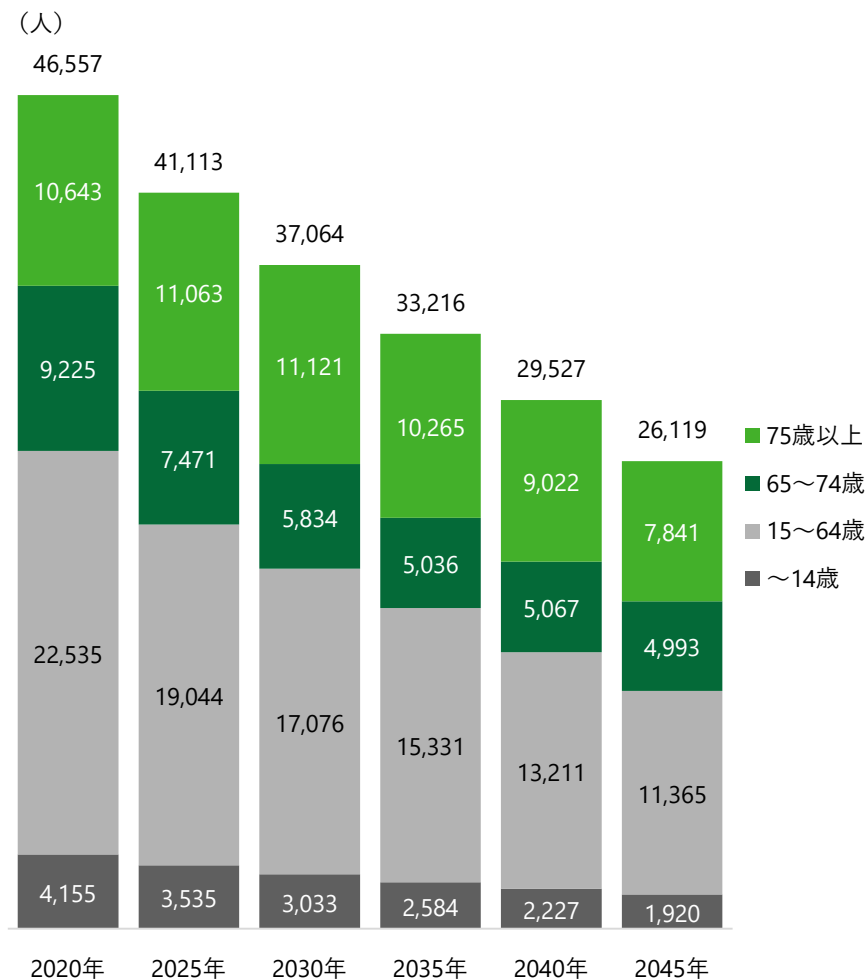
- 性別及び年齢階級別の国保、後期高齢者の1日当たり延患者数を集計し、各性別・年齢階級の加入者数を用いて算出

- 循環器（その他）には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている

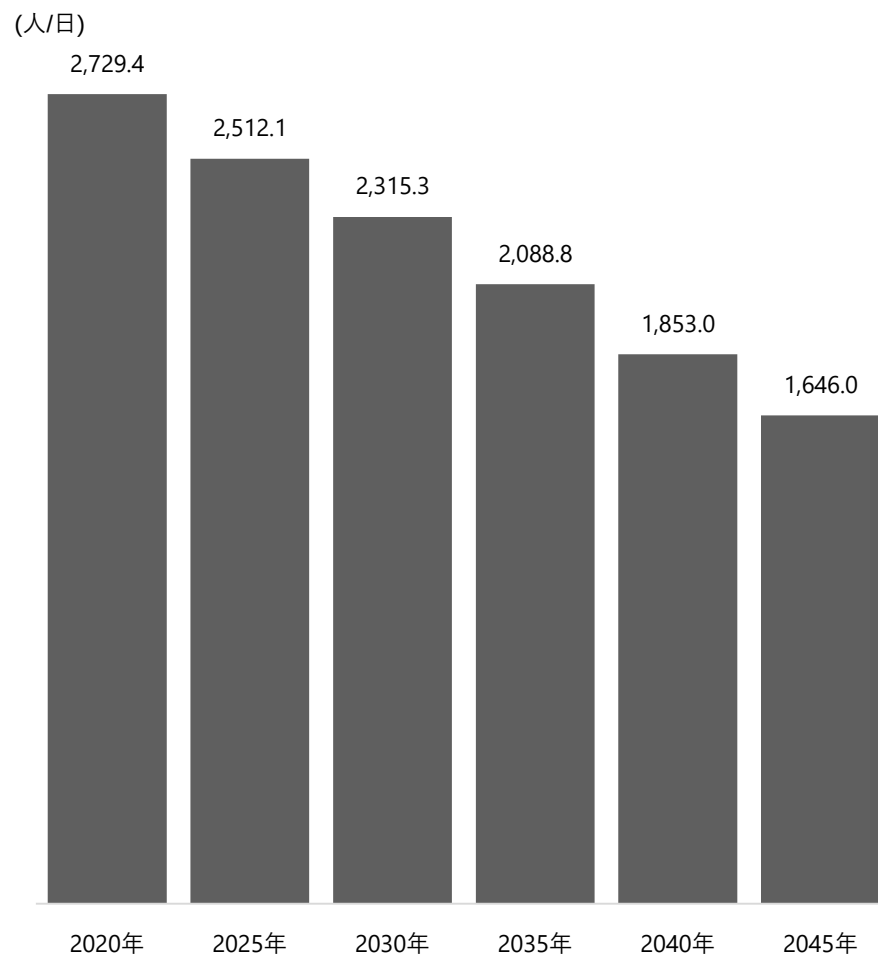
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

萩市の外来患者数は、各年齢階級の人口減少に伴って、2045年に向けて一貫して減少することが見込まれる

萩市内における人口推計（再掲）



萩市民における外来患者推計



※1日当たりの患者数は、年間診療日数は261日として算出している

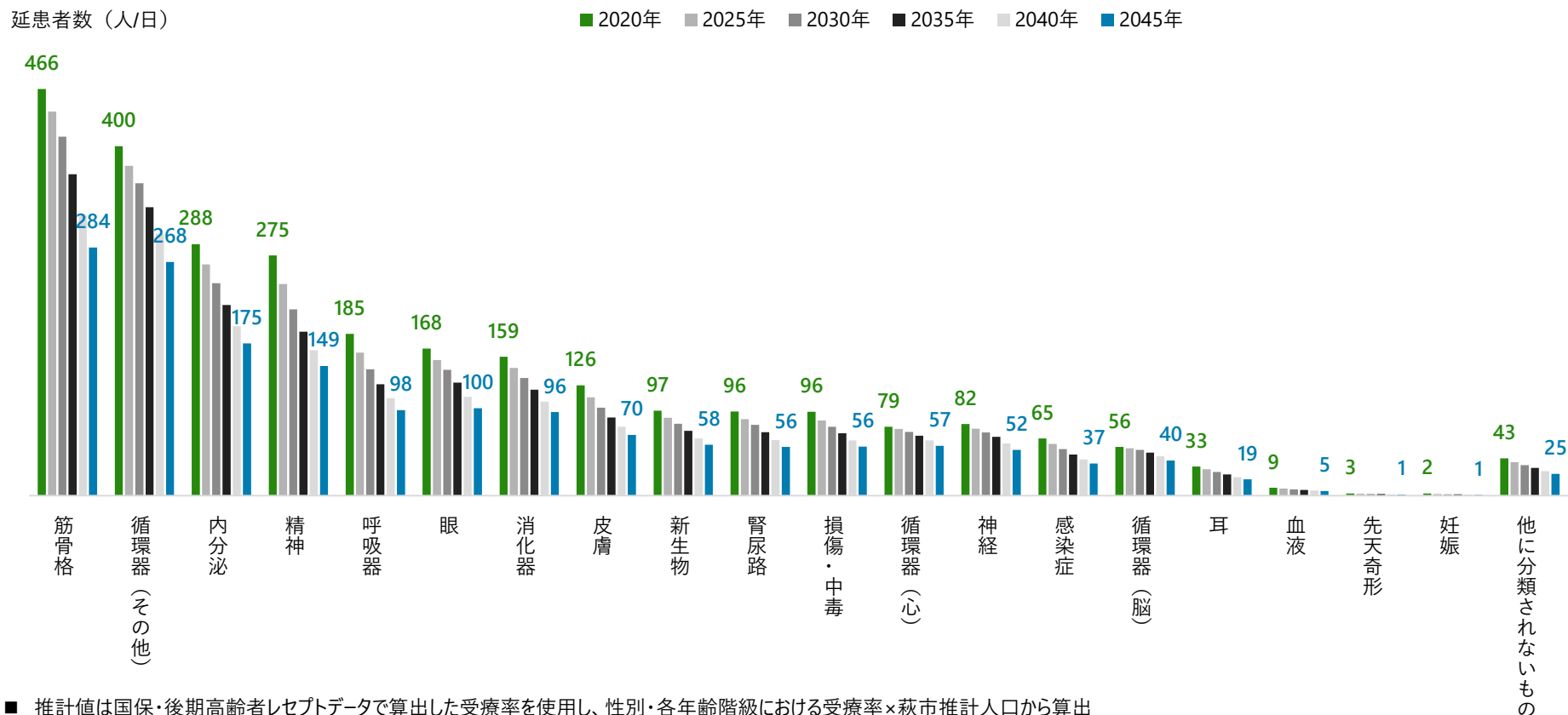
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

萩市民の外来患者は、各疾患分類で2045年に向けて患者数が減少するものの、「筋骨格」、「循環器（その他）」の患者は今後も継続して多いことが見込まれている

患者推計値

外来

全体_萩市民の外来患者推計（ICD-10分類別）



- 推計値は国保・後期高齢者レセプトデータで算出した受療率を使用し、性別・各年齢階級における受療率×萩市推計人口から算出
- グラフ上の数値は、2020の数値年及び2045年の患者推計値を表示している
- 「循環器（脳）」には、脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血・その他の脳血管疾患、「循環器（心臓）」には、虚血性心疾患・その他の心疾患、「循環器（その他）」には、高血圧性疾患・低血圧（症）・動脈硬化（症）等が含まれている
- 「精神」は統合失調症、気分障害等が含まれ、「神経」はアルツハイマー病、パーキンソン病が含まれる

※1日当たりの患者数は、年間診療日数は261日として算出している

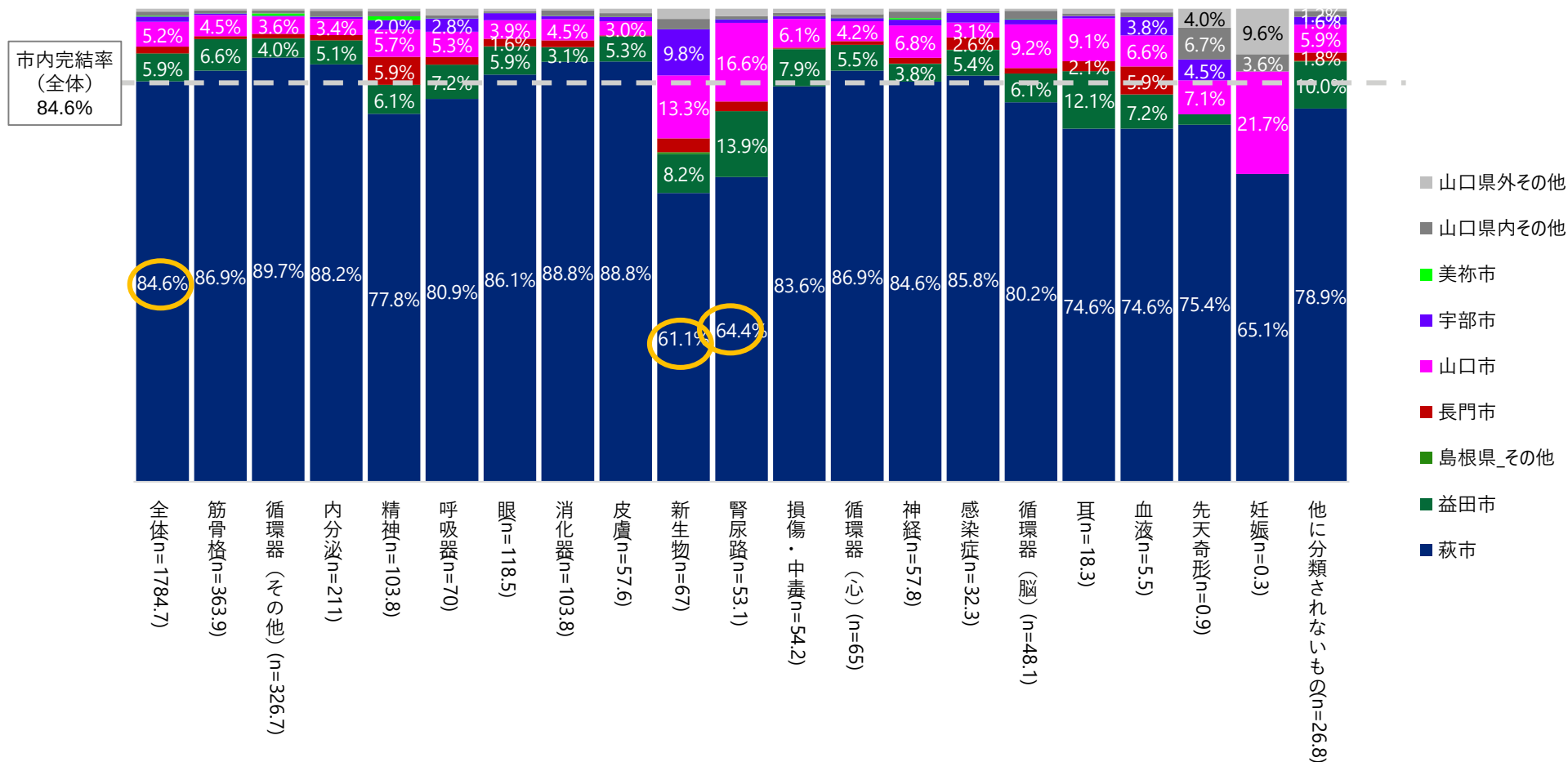
出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

萩市民の外来患者の市内完結率は、84.6%である一方、「新生物」では61.1%、「腎尿路」では64.4%に留まっている

国保・後期高齢者患者数実績

外来

全体_萩市民が外来受診している医療機関所在地の市町村割合（ICD-10分類別）



※nは1日当たりの国保・後期高齢者の外来患者数であり、左グラフの患者推計値とは異なる

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

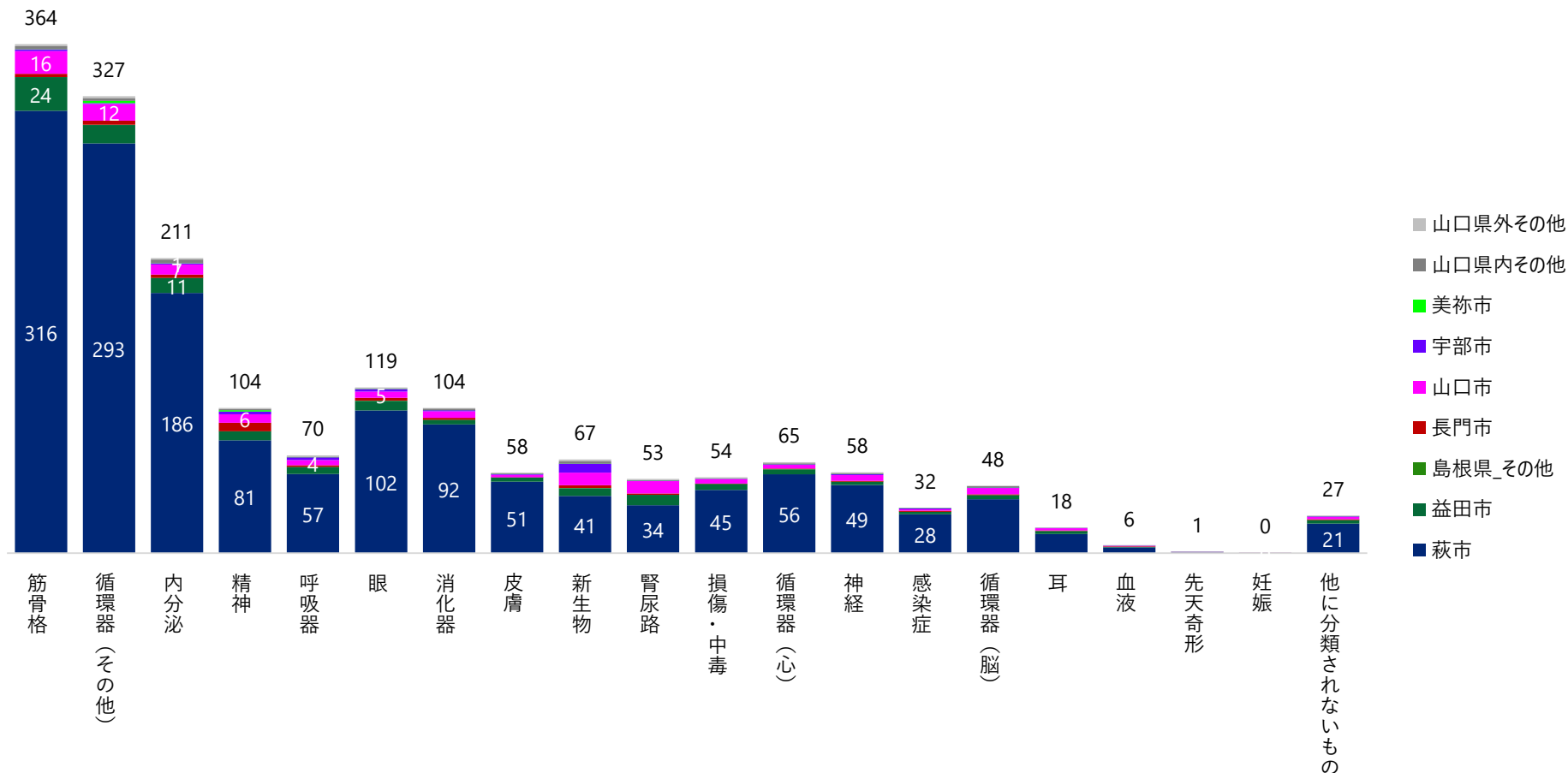
【参考】全体_疾患分類別国保・後期高齢者延患者数

国保・後期高齢者患者数実績

外来

全体_萩市民が外来受診している医療機関所在地の市町村（ICD-10分類別）

延患者数（人/日）



※1日当たりの患者数は、年間診療日数は261日として算出している

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）

レセプト分析結果を踏まえた 医療機能検討の観点

入院

新病院の医療機能検討の際には、市内完結率及び萩市内の2病院のシェアを考慮すると、「新生物」、「筋骨格」及び「循環器（脳）」の受け入れ方針検討が必要と考えられる

高度急性期・急性期_新病院における受け入れ強化等を検討すべき疾患分類

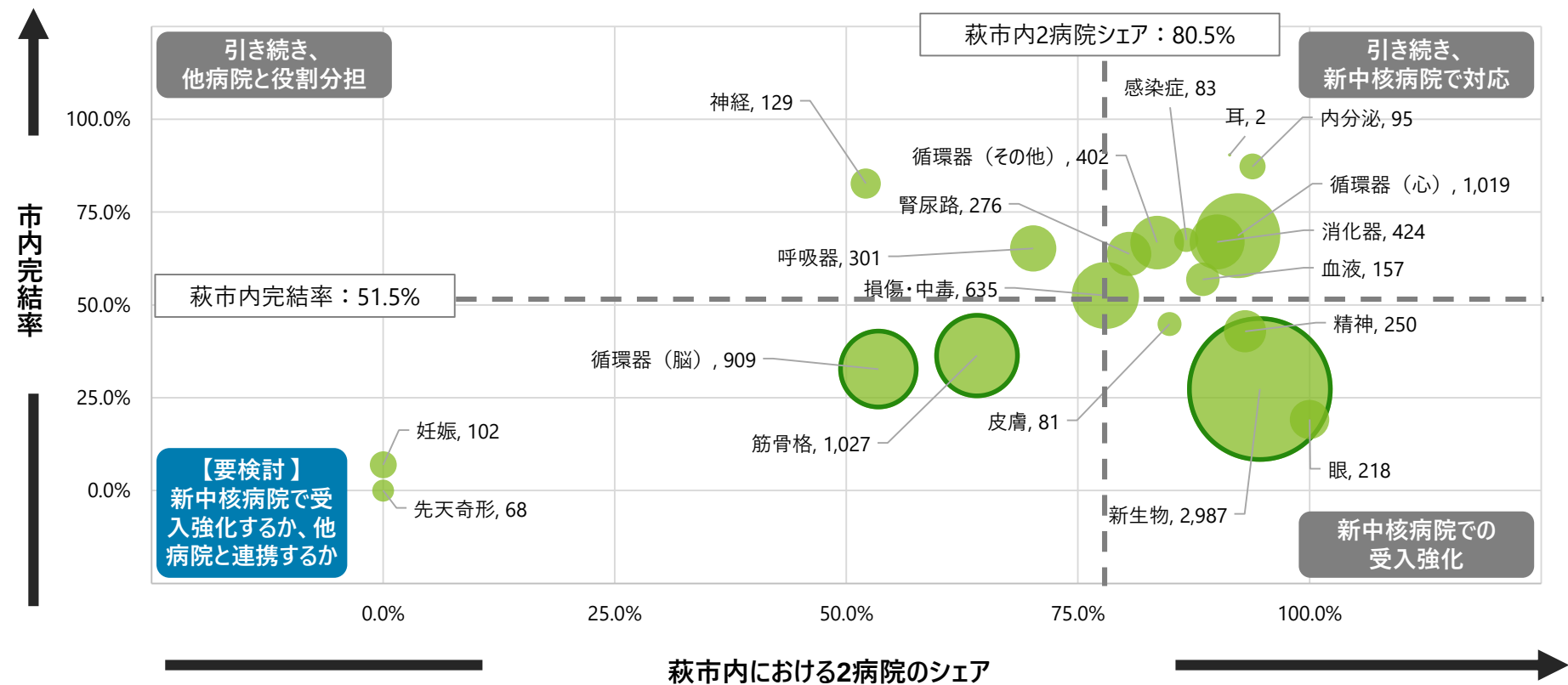
疾患分類	患者推計及び市内入院受療状況	2病院における医療機能
新生物	■ 「新生物」は市内完結率が27.3%と低い一方で、2病院の市内シェアは94.6%と高い状況である ■ 「新生物」の部位別では、「気管、気管支及び肺」の患者が最も多く、次いで「悪性リンパ腫」が多いものの、市内完結率は6%程度となっている	■ 萩市内でのシェアからは、2病院以外で高度急性期・急性期の「新生物」の患者の受け入れ機能は不足していると考えられるため、市内完結率の上昇に向けては新病院で受け入れる機能を検討することが求められる ■ 2病院では特に「気管、気管支及び肺」、「悪性リンパ腫」を受け入れる機能が不足している可能性がある
筋骨格	■ 「筋骨格」は、市内完結率が36.4%、2病院の萩市内シェアは64.1%に留まっている ■ 「筋骨格」では、「関節症」の患者が最も多いものの、市内完結率は36.4%程度となっている	■ 「関節症」の患者は、2病院合計で市内シェア34.8%の受入実績があることから、現状の2病院で「関節症」を受け入れる機能自体は有しているため、受け入れ余力を踏まえ中核病院での機能強化又は他圏域の病院との連携等を検討することが求められる
循環器（脳）	■ 「循環器（脳）」は、市内完結率が32.7%、2病院の萩市内シェアは53.5%に留まっている ■ 「循環器（脳）」では、「脳梗塞」の患者が最も多いものの、市内完結率は30.4%程度となっている	■ 「脳梗塞」の患者は、2病院合計で市内シェア56.6%の受入実績があることから、現状の2病院に「脳梗塞」を受け入れる機能自体は有しているため、受け入れ余力を踏まえ中核病院での機能強化又は他圏域の病院との連携等を検討することが求められる

疾患分類ごとの市内完結率と2病院シェアの分析を通じて、萩市内における各病院の役割を確認したうえで、他病院との連携強化や役割分担が可能な診療科を検討する

高度急性期
急性期

高度急性期、急性期患者の市内完結率と2病院（新中核病院）のシェア

- 【横軸】 右に位置するほど2病院が強みを有している領域を表している
- 【縦軸】 上に位置するほど市内完結率が高く、市内病院で萩市民に医療を十分に提供していると考えられる領域を表している
- 【円の大きさ】 円が大きいほど市外へ流出している収益が大きく、市外流出患者を獲得することで収益改善の可能性が高い領域を表している
(円の数値は萩市外流出収益：千円／日)



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

【参考】疾患分類別 市内完結率、病院別萩市内シェア及び1日当たり流出収益一覧

高度急性期

急性期

疾病分類	市内完結率	萩市内シェア				萩市外流出収益 (千円/日)
		2 病院合計シェア			萩市その他	
			萩市民病院	都志見病院		
全体	51.5%	80.4%	33.3%	47.1%	19.6%	9,197
新生物	27.3%	94.6%	28.9%	65.7%	5.4%	2,987
循環器（心）	68.6%	92.2%	62.1%	30.1%	7.8%	1,019
消化器	67.0%	90.0%	30.3%	59.7%	10.0%	424
損傷・中毒	52.5%	78.0%	63.2%	14.8%	22.0%	635
呼吸器	65.2%	70.1%	55.9%	14.2%	29.9%	301
筋骨格	36.4%	64.1%	30.9%	33.2%	35.9%	1,027
循環器（脳）	32.7%	53.5%	11.1%	42.4%	46.5%	909
腎尿路	63.7%	80.5%	36.8%	43.7%	19.5%	276
内分泌	87.3%	93.8%	7.3%	86.5%	6.2%	95
眼	19.1%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	218
循環器（その他）	66.8%	83.5%	24.1%	59.4%	16.5%	402
神経	82.7%	52.1%	9.4%	42.7%	47.9%	129
血液	56.9%	88.5%	14.4%	74.1%	11.5%	157
精神	42.9%	93.1%	11.0%	82.1%	6.9%	250
感染症	67.5%	86.7%	31.7%	55.0%	13.3%	83
皮膚	44.8%	84.9%	52.5%	32.4%	15.1%	81
妊娠	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	102
先天奇形	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	68
耳	90.4%	91.4%	20.5%	70.9%	8.6%	2
他に分類されないもの	76.6%	40.8%	0.0%	40.8%	59.2%	60

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

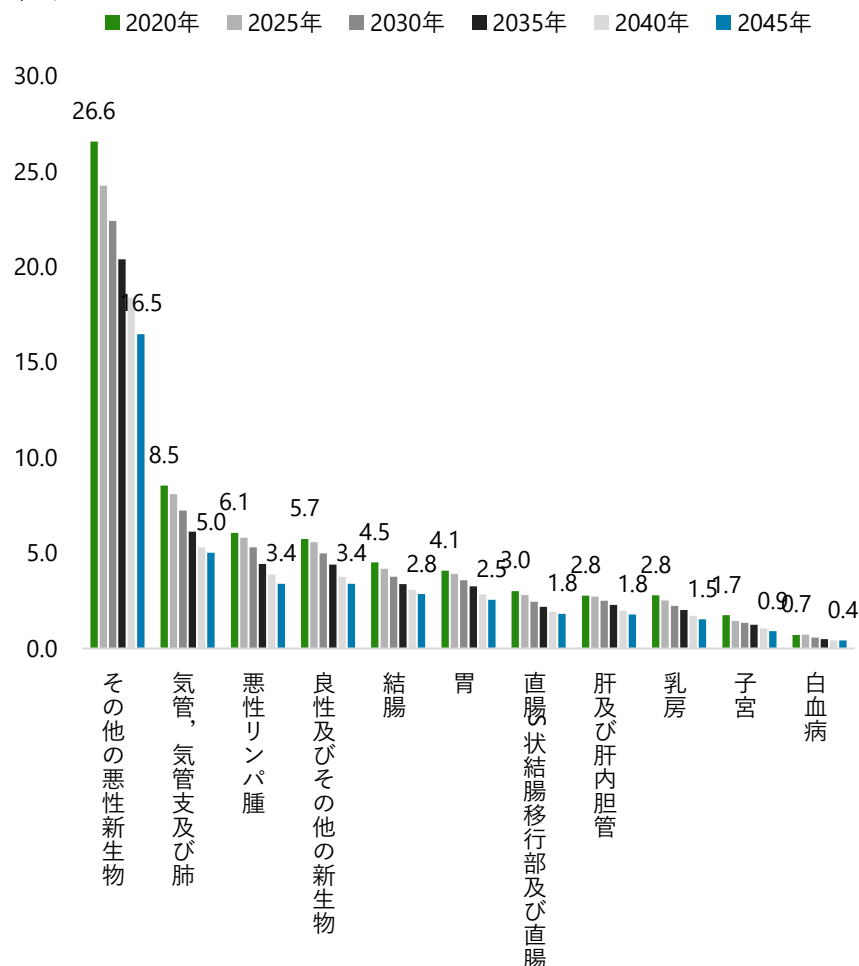
高度急性期・急性期の「新生物」患者では、特に「気管、気管支及び肺」が宇部市へ、「悪性リンパ腫」が山口市へ流出した結果、これらの市内完結率は6%程度に留まっている

高度急性期

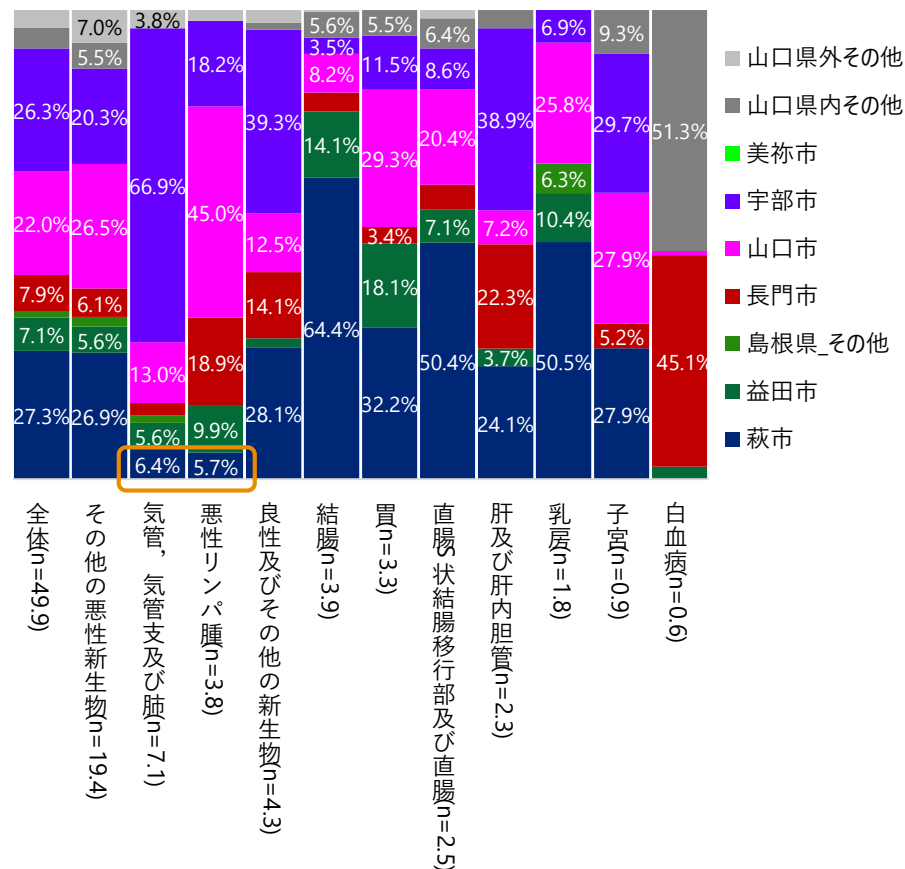
急性期

高度急性期、急性期_新生物患者_患者推計

(人/日)



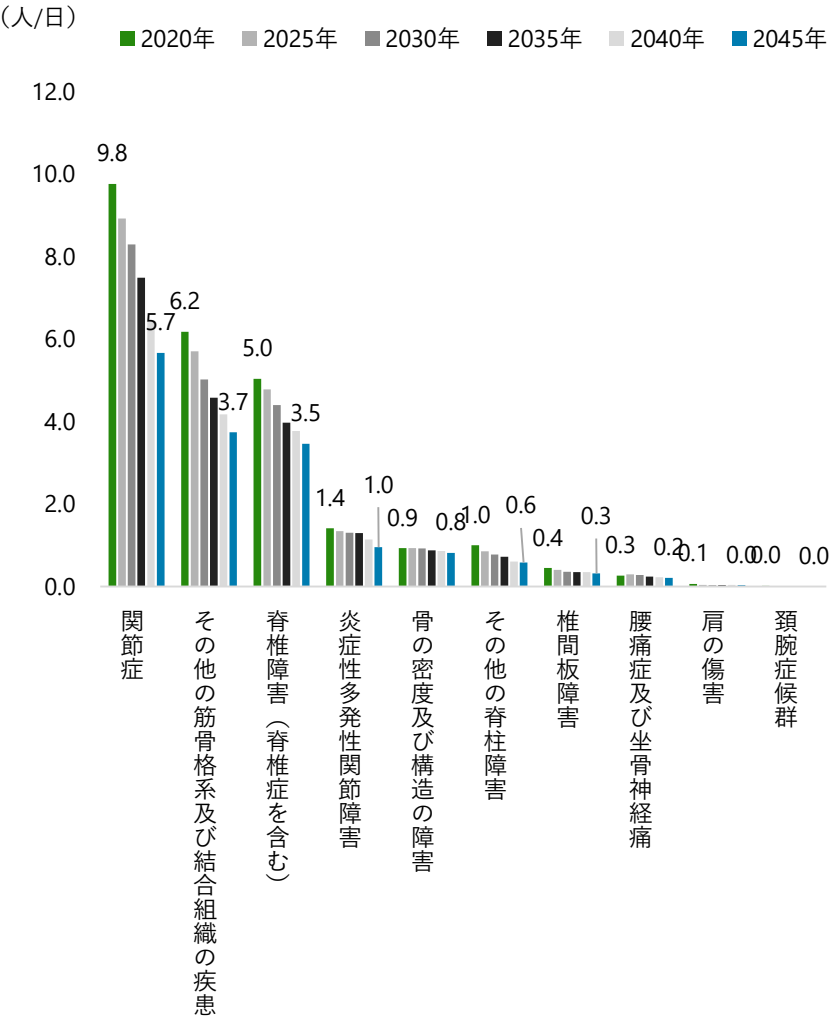
高度急性期、急性期_新生物患者_市外流出状況



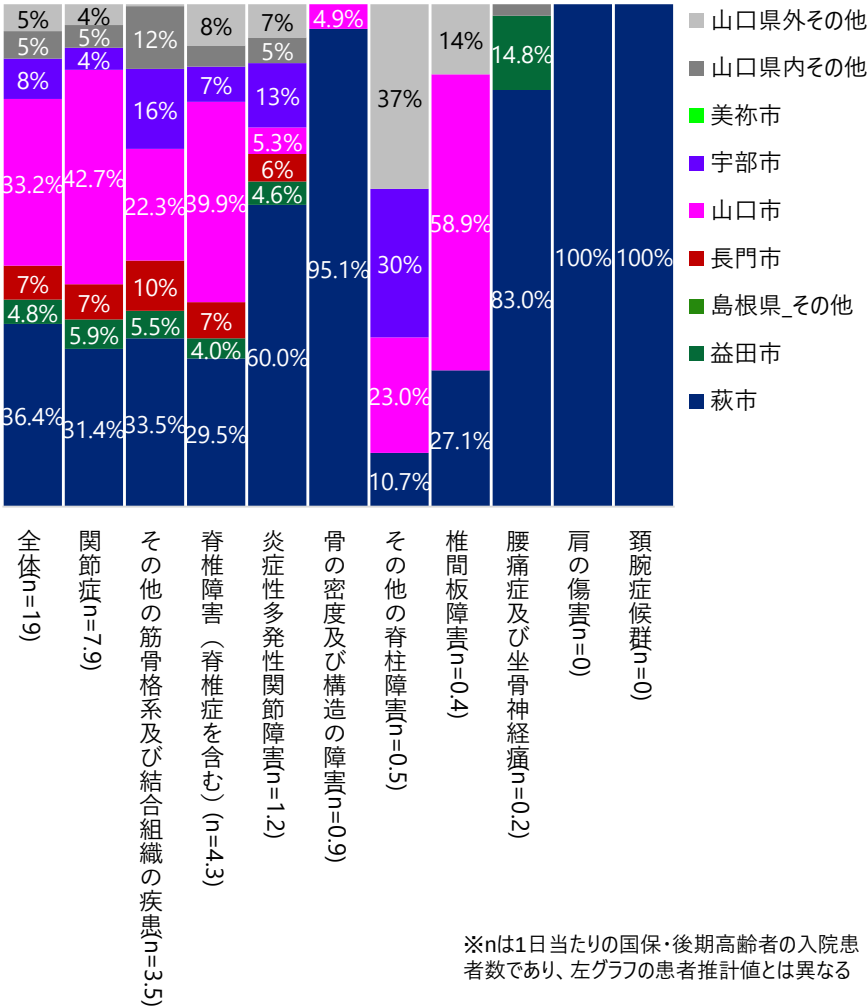
※nは1日当たりの国保・後期高齢者の入院患者数であり、左グラフの患者推計値とは異なる

高度急性期・急性期の「筋骨格」患者では、患者数が多い「関節症」が山口市へ流出した結果、市内完結率は31.4%に留まっている

高度急性期、急性期_筋骨格患者_患者推計



高度急性期、急性期_筋骨格患者_市外流出状況

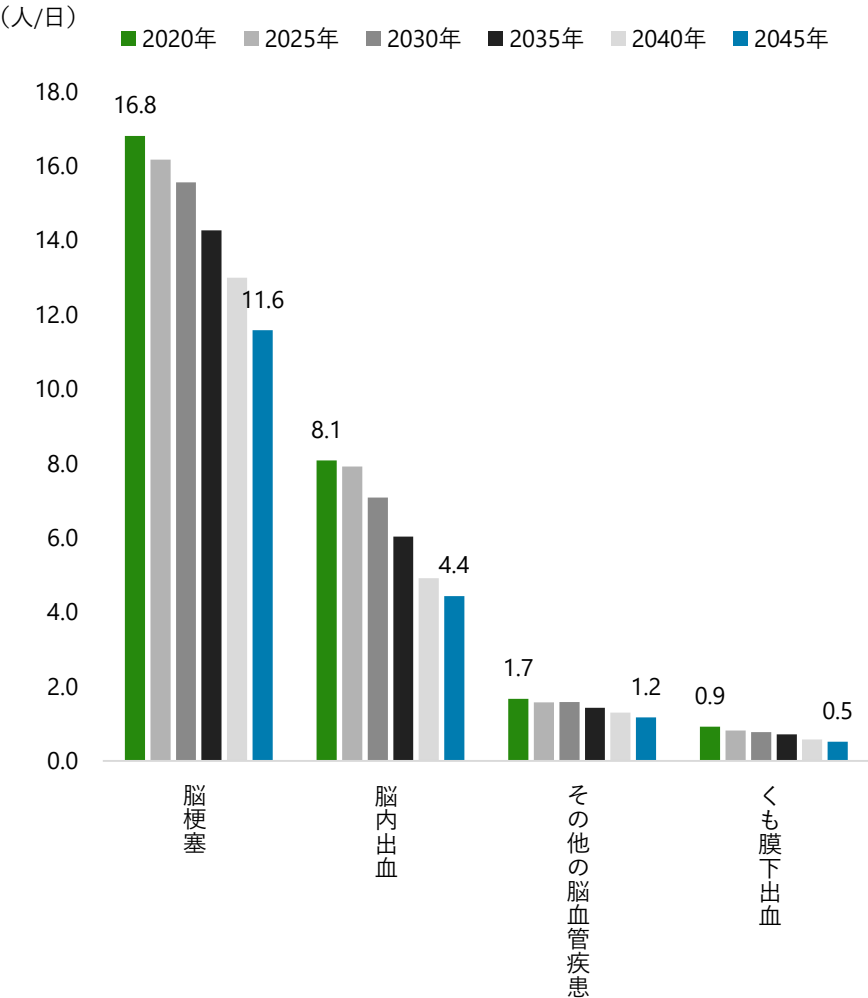


出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

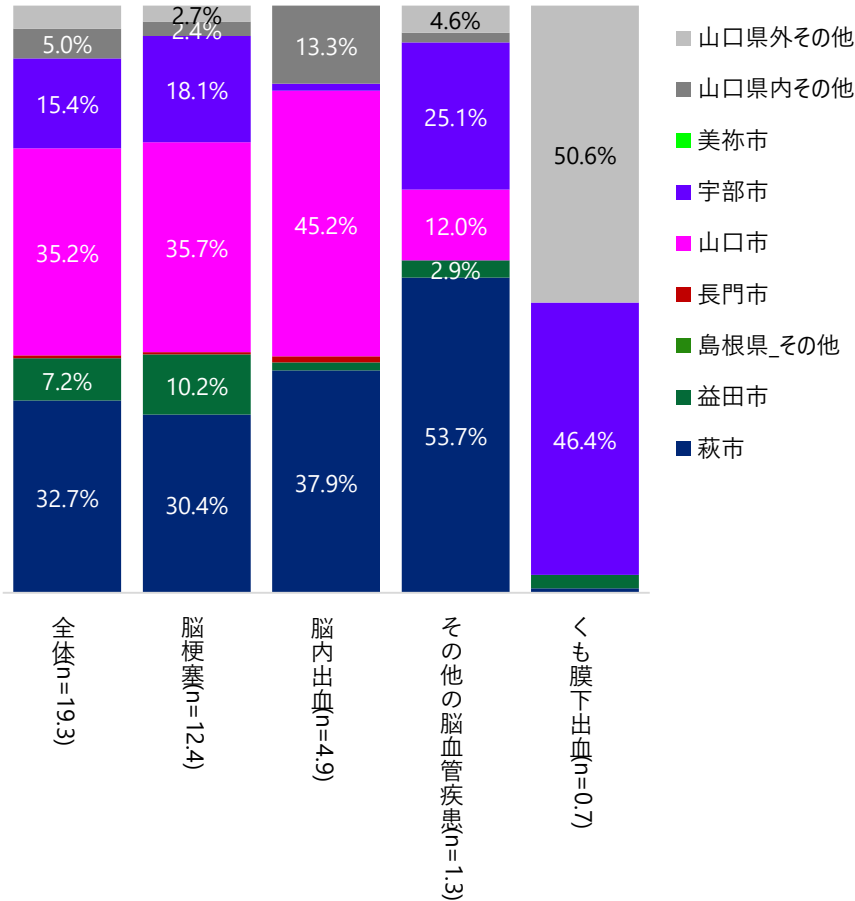
高度急性期・急性期の「循環器（脳）」患者では、患者数の多い「脳梗塞」が山口市へ流出した結果、これらの市内完結率は30.4%に留まっている

高度急性期
急性期

高度急性期、急性期_循環器（脳）患者_患者推計



高度急性期、急性期_循環器（脳）患者_市外流出状況



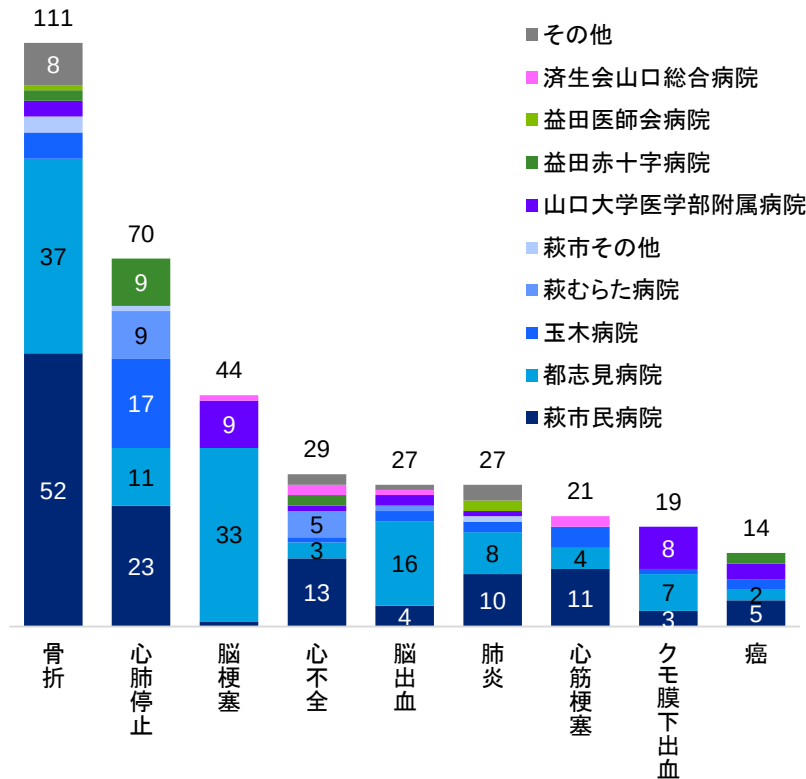
※nは1日当たりの国保・後期高齢者の入院患者数であり、左グラフの患者推計値とは異なる

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

重症患者（救急搬送）では、骨折、心不全等の心疾患及び脳梗塞等の脳血管疾患等の件数が多く、これらは2病院での受け入れが多くなっている

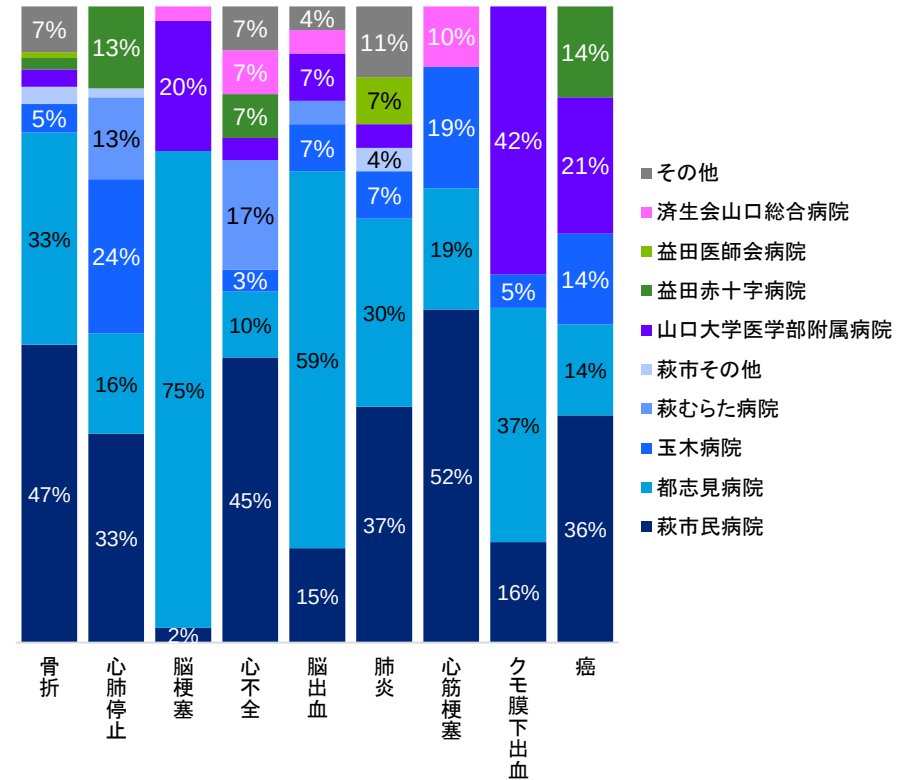
重症患者

重症_萩医療圏の医療機関における疾病別搬送件数
（平均月1件の疾患のみ）_第3回検討委員会資料より抜粋
（件）



348件（重症全体：574件）

重症_萩医療圏の医療機関における疾病別搬送件数割合
（平均月1件の疾患のみ）_第3回検討委員会資料より抜粋



※2019年のみを集計している

出所：萩消防署救急データ（2016年1月1日～2019年12月31日）

外来

市内完結率及び2病院市内シェアから、新中核病院においては、「新生物」、「腎尿路」の受け入れ方針検討が必要と考えられる

外来_新病院において重視すべき疾患分類

疾患分類	患者推計及び市内入院受療状況	医療機能検討の方向性
新生物	■ 2病院のシェアは相対的に高いものの、市内完結率は低く、且つ、市外流出額は最も多い ➢ 市内完結率：61.1%、2病院シェア：83.2%、市外流出額：1,903千円/日	■ 市内完結率の向上、及び、収益確保の面から、<u>新生物の受け入れ強化を検討</u>する ➢ 入院の医療機能検討の方向性も考慮すると、「気管、気管支及び肺」の受け入れ強化が有効
腎尿路	■ 2病院のシェアは相対的に高いものの、市内完結率は低く、且つ、市外流出額は多い ➢ 市内完結率：64.4%、2病院シェア：56.7%、市外流出額：719千円/日	■ 市内完結率の向上、及び、収益確保の面から、<u>腎尿路の受け入れ強化を検討</u>する ➢ 「腎不全」の受け入れ強化が有効

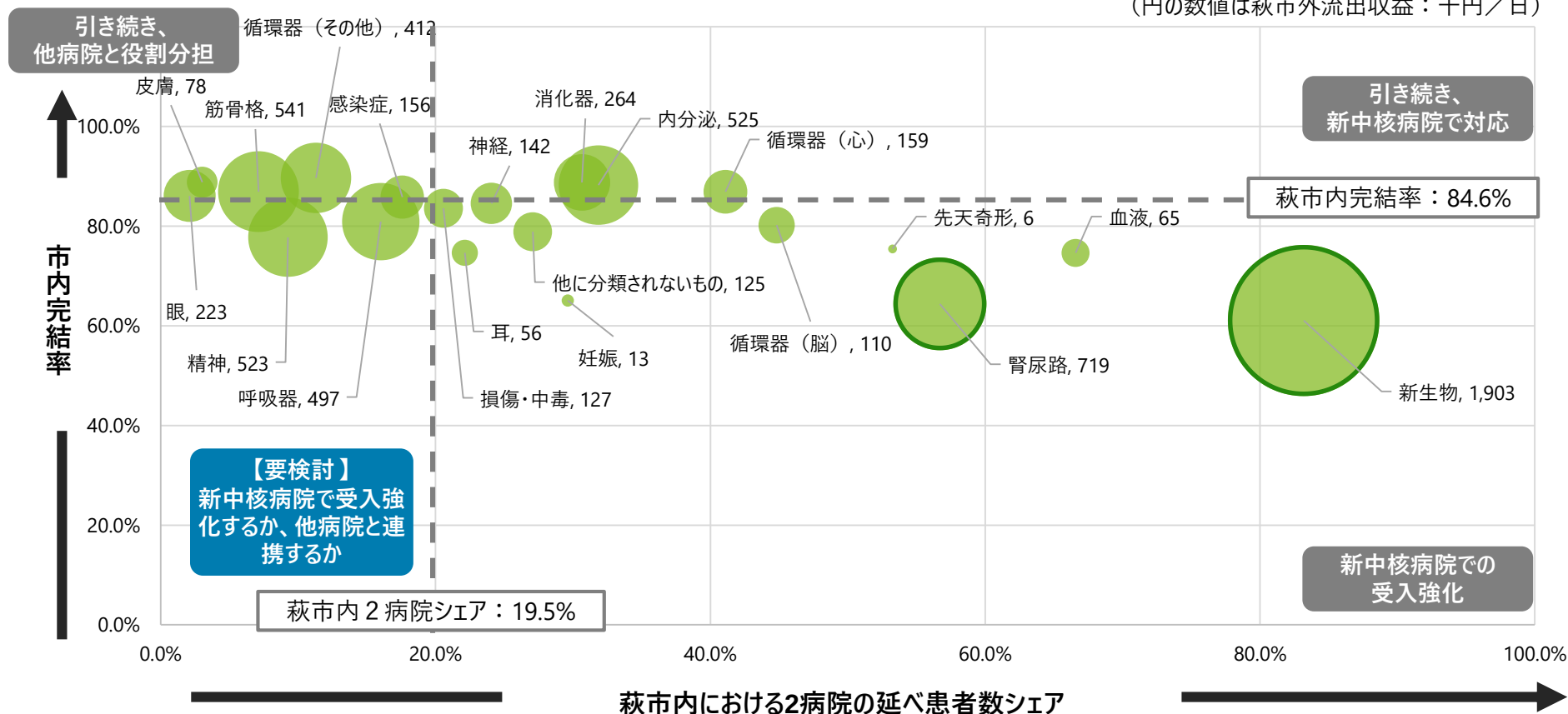
疾患分類ごとの市内完結率と2病院シェアの分析を通じて、萩市内における各病院の役割を確認したうえで、「他病院との連携強化」や「受入強化」等の方針検討につなげる

外来

外来患者の市内完結率と2病院（新中核病院）のシェア

- 【横軸】 右に位置するほど2病院が強みを有している領域を表している
- 【縦軸】 上に位置するほど市内完結率が高く、市内病院で萩市民に医療を十分に提供していると考えられる領域を表している
- 【円の大きさ】 円が大きいほど市外へ流出している収益が大きく、市外流出患者を獲得することで収益改善の可能性が高い領域を表している

（円の数値は萩市外流出収益：千円／日）



出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

【参考】疾患分類別 市内完結率、病院別萩市内シェア及び1日当たり流出収益一覧

■ 今後、受け入れ強化を検討すべき疾患分類

外来

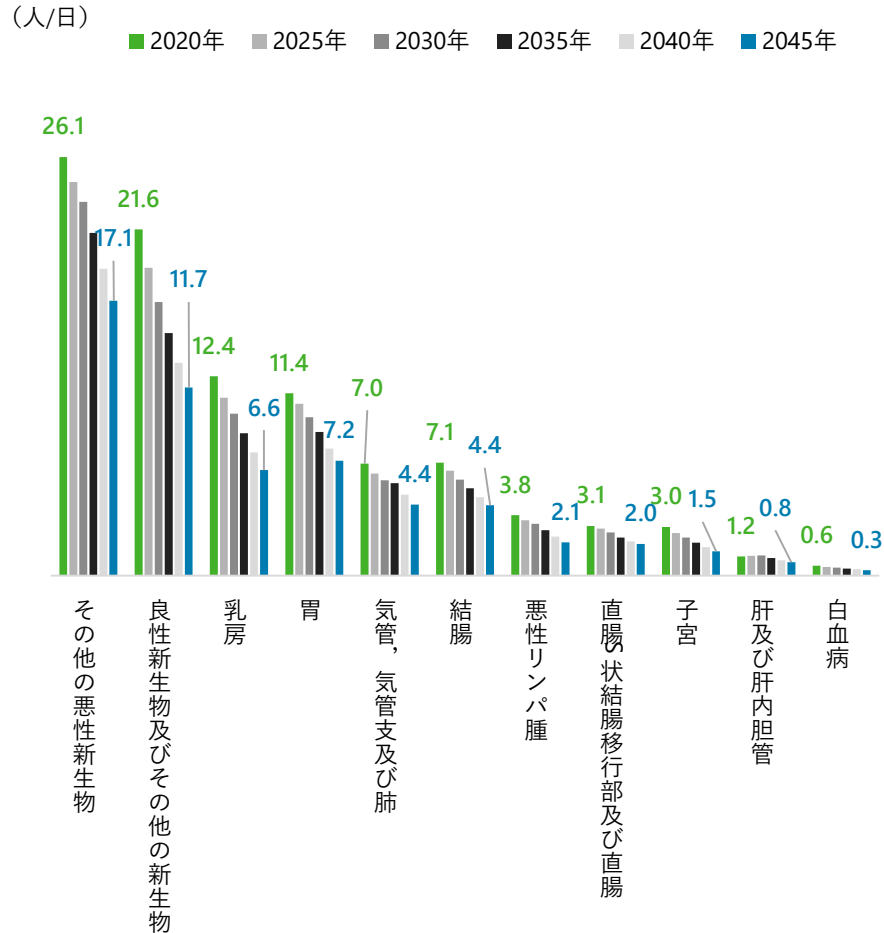
疾病分類	市内完結率	萩市内シェア				萩市外流出収益 (千円/日)
		2 病院合計シェア			萩市その他	
			萩市民病院	都志見病院		
全体	84.6%	19.5%	6.9%	12.6%	80.5%	6,472
新生物	61.1%	83.2%	14.9%	68.3%	16.8%	1,903
腎尿路	64.4%	56.7%	6.4%	50.3%	43.3%	719
筋骨格	86.9%	7.1%	3.1%	4.0%	92.9%	541
内分泌	88.2%	31.8%	8.0%	23.8%	68.2%	525
精神	77.8%	9.3%	3.4%	5.9%	90.7%	523
呼吸器	80.9%	16.1%	9.7%	6.4%	83.9%	497
循環器（その他）	89.7%	11.3%	6.8%	4.5%	88.7%	412
消化器	88.8%	30.6%	10.9%	19.7%	69.4%	264
眼	86.1%	2.1%	0.0%	2.1%	97.9%	223
循環器（心）	86.9%	41.1%	27.4%	13.7%	58.9%	159
感染症	85.8%	17.6%	6.6%	11.0%	82.4%	156
神経	84.6%	24.1%	4.8%	19.3%	75.9%	142
損傷・中毒	83.6%	20.6%	16.2%	4.4%	79.4%	127
循環器（脳）	80.2%	44.8%	7.7%	37.1%	55.2%	110
皮膚	88.8%	3.0%	1.0%	2.0%	97.0%	78
血液	74.6%	66.6%	20.0%	46.6%	33.4%	65
耳	74.6%	22.2%	1.2%	21.0%	77.8%	56
妊娠	65.1%	29.6%	0.0%	29.6%	70.4%	13
先天奇形	75.4%	53.2%	18.9%	34.3%	46.8%	6
他に分類されないもの	78.9%	27.0%	10.2%	16.8%	73.0%	125

出所：国保・後期高齢者レセプトデータ（診療年月：2019年4月～2020年3月）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2018年）

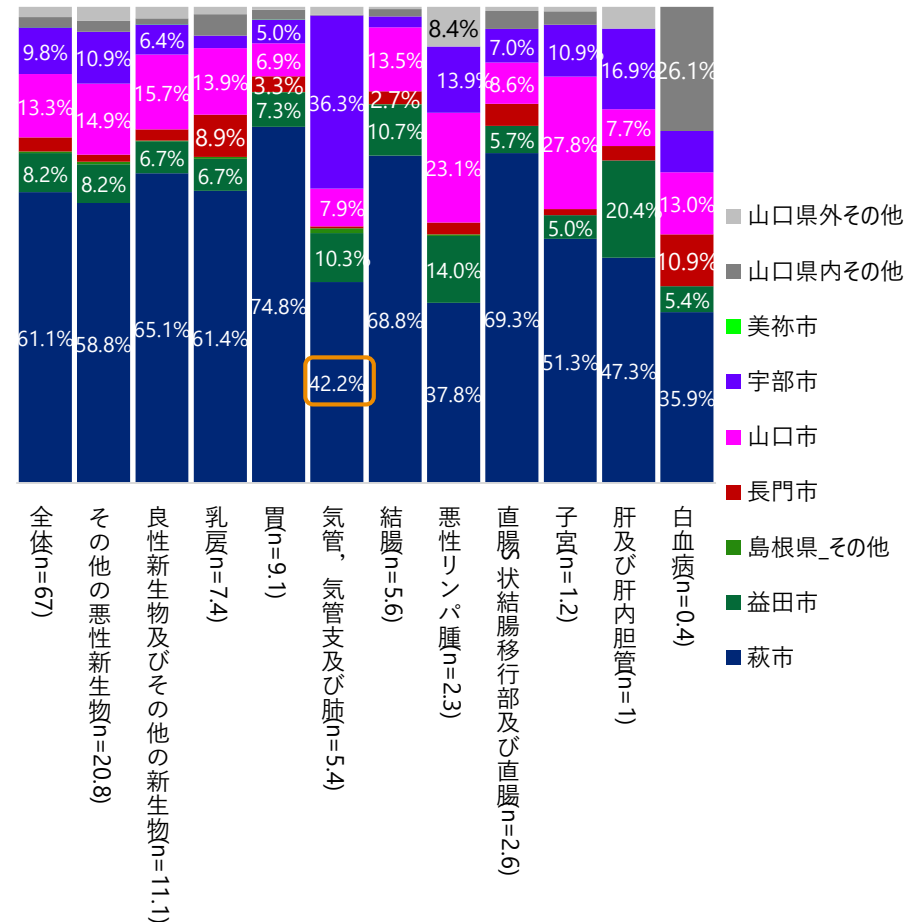
外来の「新生物」患者では、特に「気管、気管支及び肺」患者は宇部市へ流出した結果、市内完結率が42.2%に留まっている

外来

外来_新生物患者_患者推計



外来_新生物患者_市外流出状況



※nは1日当たりの国保・後期高齢者の外来患者数であり、左グラフの患者推計値とは異なる

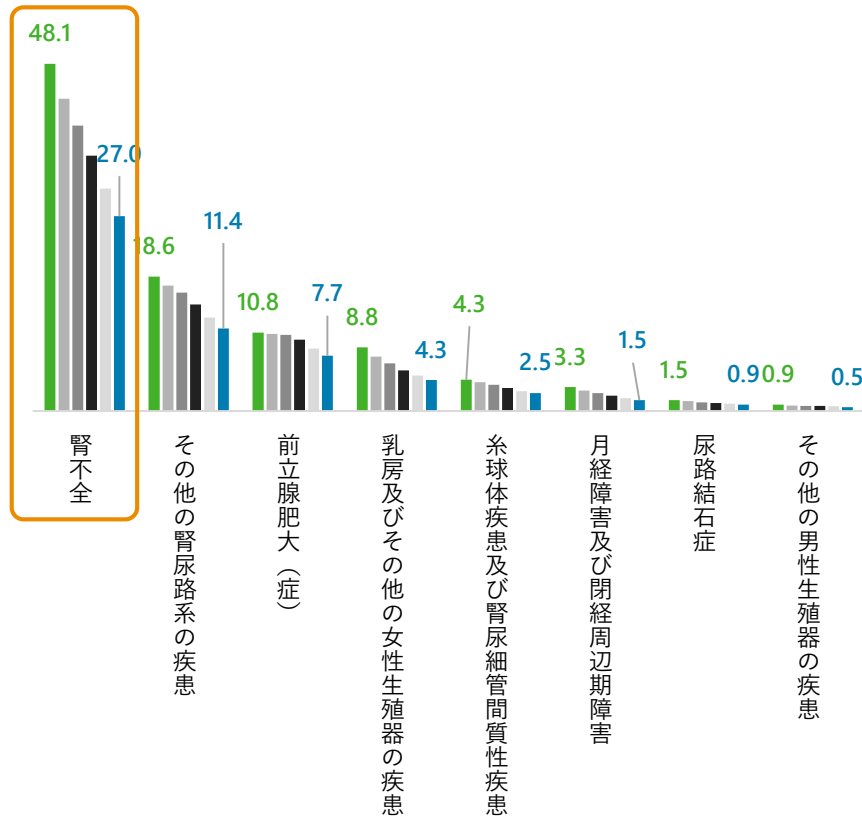
外来の「腎尿路」患者では、特に患者数の多い「腎不全」患者が山口市や益田市へ流出した結果、市内完結率は56.4%に留まっている

外来

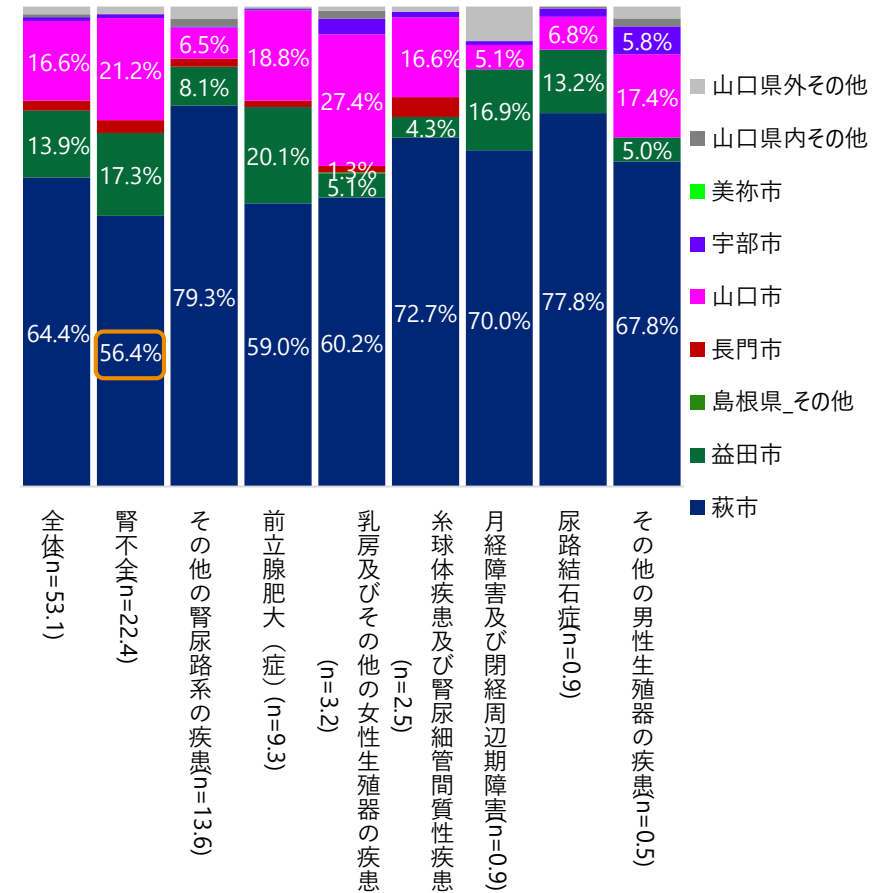
外来_腎尿路患者_患者推計

(人/日)

■ 2020年 ■ 2025年 ■ 2030年 ■ 2035年 ■ 2040年 ■ 2045年



外来_新生物患者_市外流出状況



※nは1日当たりの国保・後期高齢者の外来患者数であり、左グラフの患者推計値とは異なる